

NISSHIN

ウレタン塗膜防水工法 セピロン防水



- 当カタログのデータは全て性能値であり保証値ではありません。
- カタログに掲載してある製品の色は実際のものとは印刷インキの再現上、多少異なる場合があります。
- 材料、仕様は予告なく変更する場合があります。

防水のことがわかるニッシン・オフィシャルサイト <http://www.nisshinkogyo.co.jp/>



総合防水材料メーカー

日新工業株式会社

☎ 0120-86-2424 [営業総務課]

■ 本社／営業統括部 〒120-0025 東京都足立区千住東2-23-4 TEL.(03)3882-2571
■ 関 東 TEL.(03)3882-2641 ■ 九 州 TEL.(092)451-1095 ■ 広 島 TEL.(082)541-5033
■ 大 阪 TEL.(06)6533-3191 ■ 札 幌 TEL.(011)215-1034 ■ 横 浜 TEL.(045)316-7885
■ 名 古 屋 TEL.(052)933-4761 ■ 仙 台 TEL.(022)263-0315 ■ 工 場 埼 玉 ・ 山 形

Sep. 2015-3000 PP

日新工業株式会社

新世代のウレタン塗膜防水 セピロン

現代の建築工事にとって、ウレタン塗膜防水は欠かせない存在です。

ウレタン塗膜防水が登場して40年以上を経た今日、
環境負荷の低減や高耐久性などの課題に取り組みながら
最新のテクノロジーから生まれた新世代のウレタン防水工法。
それが「セピロン防水工法」です。

セピロン防水工法には、環境に配慮し、冬期でも翌日に硬化する程の速硬化性を誇る「セピロンQ工法」と、より環境面に対応し、無溶剤型ウレタンを使用した「セピロンE工法」があります。
また、ウレタン防水材と改質アスファルトシートを併用した複合絶縁防水「セピロンM工法」も用意しております。
クリーンで安全、そして施工性に優れたセピロン防水工法は、オフィスビルや学校、マンションなど新築工事はもとより、改修工事にも大きなアドバンテージを生み出します。

● 標準仕様は、F☆☆☆☆を取得した材料を使用しています。

セピロン防水工法の特長

優れた安全性

セピロンコート類は「労働安全衛生法／特定化学物質障害予防規則」（特化則）において、特定化学物質とされている「MOCA」を使用しておりません。また、「TDI」の含有量も1%未満です。
特にセピロンE工法に使用するセピロンコートE類は、「MOCA」はもちろん厚生労働省及び文部科学省の指針値で規定されている、キシレン、トルエン、ホルムアルデヒドなどの揮発性有機化合物（VOC）を全く使用しておりません。

●セピロン防水における特定化学物質（TDI、MOCA）含有について

分類	製品名	主剤 対象物質：(TDI) トリレンジイソシアネート	硬化剤 対象物質：(MOCA) 3,3'-ジクロロ-4,4'-ジアミノジフェニルメタン
防水材	セピロンコートQ	対象外	未使用
	セピロンコートQV	対象外	未使用
	セピロンコートE	対象外	未使用
	セピロンコートEV	対象外	未使用
プライマー類	—	対象外	未使用
トップコート類	—	対象外	未使用
副資材	未使用		

対象外:原料自体は使用しておりますが、トリレンジイソシアネートの含有量が規制値以下（1%未満）となります。
未使用:原料自体を含有しておりません。

優れた作業性（速硬化性）と工期の短縮

セピロンコートは塗り易いことはもちろん、更に専用硬化促進剤を併用すると、より短時間で硬化させることが出来ます。
このため、大きく工期を短縮することが可能です。

歩行が可能

セピロン防水は、耐摩耗性・耐衝撃性に優れているので、開放廊下やベランダ、ルーフトバルコニー等、歩行頻度の高い床でも使用できます。（スポーツ床仕上げとする場合は、ご相談ください。）

シームレスで、仕上がりが綺麗

平場用の防水材は、セルフレベルリング性を備えており、他の防水材よりシームレスで美観に優れた防水層が形成できます。

軽量で、屋根に負担をかけない

セピロン防水材は、薄膜で防水性の強い塗膜が形成できます。
その為、屋根にかかる荷重を軽減できます。

複雑な形状の下地に対応

セピロン防水材は、塗膜防水であるため、シート系防水材が苦手としている複雑な納まりの施工箇所に適しております。

厳冬期でも翌日硬化

セピロン防水材は、硬化促進剤を併用することにより、厳冬期でも翌日硬化が可能で、夏期には1日2工程を行うことも可能です。

確かな防水性能

セピロンコートの硬化被膜は、650%以上の伸び率を有します。
このため、下地の挙動にも追従でき、確かな防水性能が得られます。

JIS規格に適合する確かな品質

セピロンコート類は、「JIS A 6021（建築用塗膜防水材）ウレタンゴム系高伸長形（旧1類）」に適合する製品です。

色彩豊かな防水層の形成

セピロン防水用の保護塗料は、様々な着色が可能であり、色彩豊かな防水層の形成が可能です。

目次

	ページ
セピロン防水工法の特長	3
仕様の見方、仕様適合表、各工法の特長	4-5
防水仕様	6-15
公的仕様書資料	16
トップコートについて	17
セピロン防水の施工上の注意	18-19
技術資料	20-27
材料一覧	28-33
納まり図	34-37

仕様の見方

U

F

- 30

E

N

L

セピロン防水工法

工法の種類

防水層の厚さ

防水材のタイプ

絶縁シートの種類

トップコートの種類

- 工法の種類
- F

密着工法
- D

絶縁工法
- B

ベランダ、庇、パラペット工法
- M

改質アスファルトシート併用絶縁工法
- T

トップコート塗り替え

- 防水層の厚さ
- 15

平均 1.5 mm
- 20

平均 2.0 mm
- 30

平均 3.0 mm
- 40

平均 4.0 mm

- 防水材のタイプ
- Q

環境配慮型（平場）
- QV

環境配慮型（立上り）
- E

環境対応型（平場）
- EV

環境対応型（立上り）

- 絶縁シートの種類
- A

セピロンシート A（穴あり）
- N

セピロンシート N（穴なし）

- トップコートの種類
- C

カラートップコート（環境配慮型）
- X

カラートップコート（環境対応型）
- L

シルバートップコート
- S

高耐候性シリコン系トップコート
- W

高耐候性カラートップコート
- Z

遮熱性トップコート

仕様適合表

仕様記号	工 法	適用部位					
		屋 上	ルーフバルコニー	バルコニー	架台(笠木・庇)	廊 下	階 段
UF	密着工法（クロスあり）	○	○	○	○	○	○
UD	絶縁工法	○	○				
UM	改質アスファルト複合絶縁工法	○	○				
UB	密着工法（クロスあり、なし）			○	○	○	○

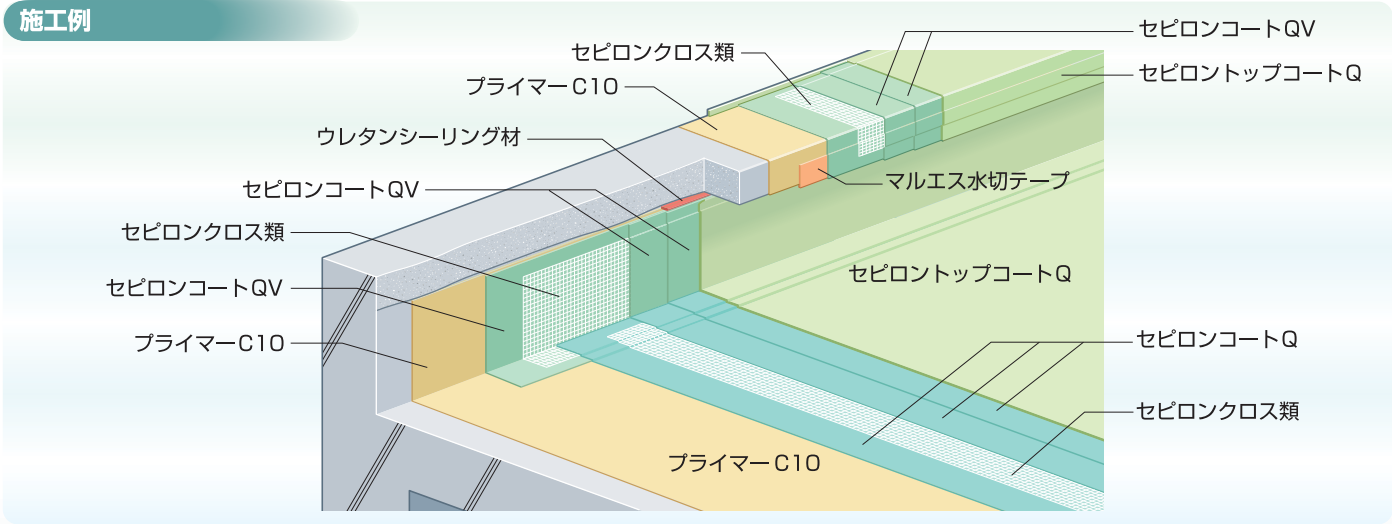
各工法の特長

- UF工法
- 液状でシームレスな防水材であり、形状の複雑な部位にも施工が容易です。
下地との密着性に優れます。
- UD工法
- 絶縁シート「セピロンシートA（N）」を使用する、絶縁工法です。脱気筒と併用することにより、下地からの湿気を排出し、フクレを防止する効果があります。
下地に湿気が溜まりやすい改修工事等に適した工法です。
- UM工法
- 改質アスファルトシートと、ウレタン防水材を組み合わせた複合絶縁工法です。
アスファルトシートの耐久性、絶縁シートの通気性、ウレタン塗膜防水材の美観を併せ持つ工法です。（アスファルト防水の改修用シートとしても使用可能です）
- UB工法
- バルコニーや、開放廊下、階段等に適した工法です。形状が複雑で、クロスを入れにくい場合に適した工法です。

環境配慮型 屋上防水仕様（密着工法）

	平 場	平 場	平 場	立上り(共通)
	UF-20QC	UF-30QC	UF-40QC	UF-20QVC
防水材 使用量	2.6kg/m ²	3.9kg/m ²	5.2kg/m ²	2.6kg/m ²
平均 塗膜厚	2.0mm	3.0mm	4.0mm	2.0mm
1	プライマーC10 0.2kg/m ²	プライマーC10 0.2kg/m ²	プライマーC10 0.2kg/m ²	プライマーC10 0.2kg/m ²
2	セピロンコートQ 0.3kg/m ²	セピロンコートQ 0.3kg/m ²	セピロンコートQ 0.3kg/m ²	セピロンコートQV 0.3kg/m ²
3	クロスKまたは セピロクロスG	クロスKまたは セピロクロスG	クロスKまたは セピロクロスG	クロスKまたは セピロクロスG
4	セピロンコートQ 1.2kg/m ²	セピロンコートQ 2.0kg/m ²	セピロンコートQ 1.7kg/m ²	セピロンコートQV 1.2kg/m ²
5	セピロンコートQ 1.1kg/m ²	セピロンコートQ 1.6kg/m ²	セピロンコートQ 1.6kg/m ²	セピロンコートQV 1.1kg/m ²
6	セピロントップコートQ 0.2kg/m ²	セピロントップコートQ 0.2kg/m ²	セピロンコートQ 1.6kg/m ²	セピロントップコートQ 0.2kg/m ²
7	—	—	セピロントップコートQ 0.2kg/m ²	—
備 考	—	■公共建築仕様 X-2同等 ■JASS8仕様 L-UFS同等	—	■公共建築仕様 X-2同等 ■JASS8仕様 L-UFS同等

施工例

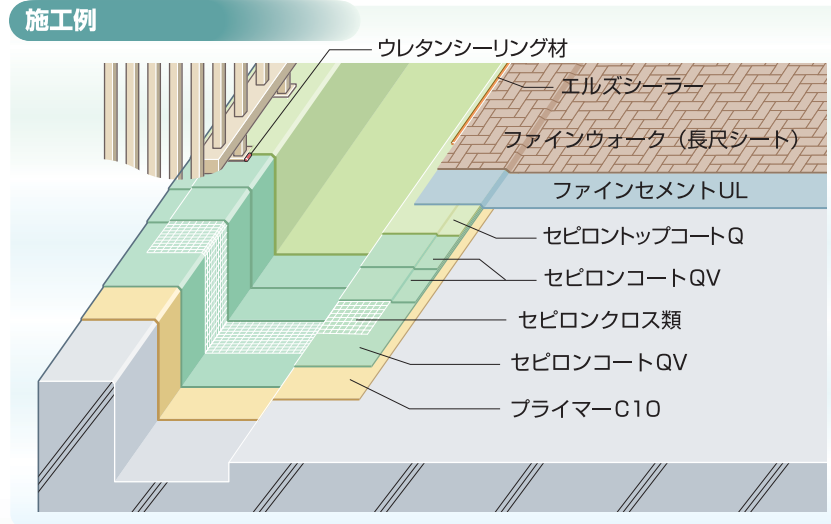


※公共建築仕様X-2に準ずる場合は出入隅部に補強塗りを行ってください。

環境配慮型 ベランダ、パラペット、庇用仕様（密着工法）

	平 場	立上り	平 場	立上り	平 場	立上り
	UB-15QC	UB-15QVC	UB-20QC	UB-20QVC	UB-30QC	UB-20QVC
防水材 使用量	2.0kg/m ²	—	2.6kg/m ²	—	3.9kg/m ²	2.6kg/m ²
平均 塗膜厚	1.5mm	—	2.0mm	—	3.0mm	2.0mm
1	プライマーC10 0.2kg/m ²	プライマーC10 0.2kg/m ²	プライマーC10 0.2kg/m ²	プライマーC10 0.2kg/m ²	プライマーC10 0.2kg/m ²	プライマーC10 0.2kg/m ²
2	セピロンコートQ 2.0kg/m ²	セピロンコートQV 1.0kg/m ²	セピロンコートQ 0.3kg/m ²	セピロンコートQV 0.3kg/m ²	セピロンコートQ 0.3kg/m ²	セピロンコートQV 0.3kg/m ²
3	セピロントップコートQ 0.2kg/m ²	セピロンコートQV 1.0kg/m ²	クロスKまたは ※ セピロクロスG	クロスKまたは ※ セピロクロスG	クロスKまたは セピロクロスG	クロスKまたは セピロクロスG
4	—	セピロントップコートQ 0.2kg/m ²	セピロンコートQ 1.2kg/m ²	セピロンコートQV 1.2kg/m ²	セピロンコートQ 2.0kg/m ²	セピロンコートQV 1.2kg/m ²
5	—	—	セピロンコートQ 1.1kg/m ²	セピロンコートQV 1.1kg/m ²	セピロンコートQ 1.6kg/m ²	セピロンコートQV 1.1kg/m ²
6	—	—	セピロントップコートQ 0.2kg/m ²	セピロントップコートQ 0.2kg/m ²	セピロントップコートQ 0.2kg/m ²	セピロントップコートQ 0.2kg/m ²
7	—	—	—	—	—	—
備 考	パラペット、庇のみ適用		※工程3を省略することもできます。 その際は、「クロスなしの場合」をご参照ください。		■公共建築仕様 X-2同等 ■JASS8仕様 L-UFS同等	

施工例



※公共建築仕様X-2に準ずる場合は出入隅部に補強塗りを行ってください。

● クロスなしの場合

	平 場	立 上 り
1	プライマーC10 0.2kg/m ²	プライマーC10 0.2kg/m ²
2	セピロンコートQ 1.3kg/m ²	セピロンコートQV 0.6kg/m ²
3	セピロンコートQ 1.3kg/m ²	セピロンコートQV 1.0kg/m ²
4	セピロントップコートQ 0.2kg/m ²	セピロンコートQV 1.0kg/m ²
5	—	セピロントップコートQ 0.2kg/m ²

高耐候・遮熱仕上材

仕様記号	種 類	工程1	工程2
S	高耐候	セピロントップコートQ 0.15kg/m ²	セピロントップコートSi 0.15kg/m ²
Z	遮熱	セピロントップクール 0.15kg/m ²	セピロントップクール 0.15kg/m ²

※仕様記号はP.4「仕様の見方」をご参照ください。

注意事項

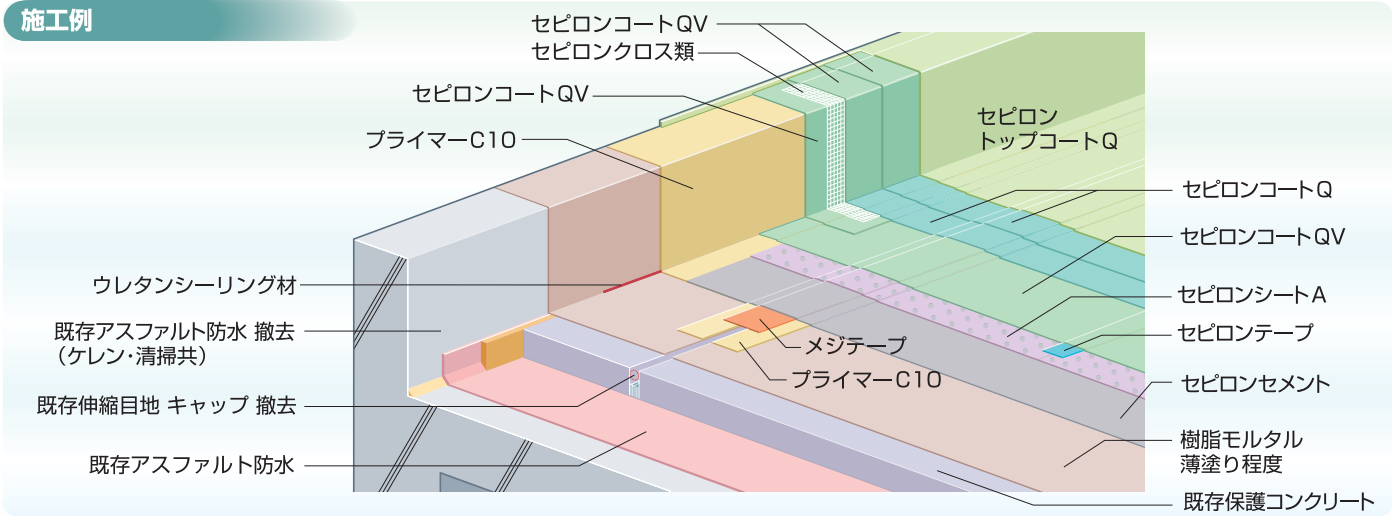
- プライマーC10に替えてプライマーC3を使用することもできます。
- プライマーC10は、プライマーC1とポルトランドセメントを1:1の割合で混合したものです。
- シルバー仕上げとする場合は、トップコートQに替えてセピロンシルバー(0.2kg/m²)を使用します。
- スポーツ床仕上げとする場合は、弊社担当者へご相談ください。
- 粗面仕上げとする場合は、P.17「粗面仕上げの方法」をご参照ください。
- パラペット、庇の部位については、セピロンコートQに替えてセピロンコートQVを使用することもできます。
- 3日以内に次工程に移れない場合は、プライマーM4処理を行ってから、次工程の塗布を行ってください。(P.23参照)
- 施工対象下地によってプライマーを使い分ける場合があります。(P.20「プライマーの選択」参照)

環境配慮型

屋上防水仕様（絶縁工法）

穴ありタイプ

	平 場	平 場	平 場	立上り(共通)
	UD-20QAC	UD-30QAC	UD-40QAC	UF-20QVC
防水材 使用量	2.7kg/m ²	4.0kg/m ²	5.3kg/m ²	2.6kg/m ²
平均 塗膜厚	2.0mm	3.0mm	4.0mm	2.0mm
1	セピロンセメント 0.3kg/m ²	セピロンセメント 0.3kg/m ²	セピロンセメント 0.3kg/m ²	プライマーC10 0.2kg/m ²
2	セピロンシートA	セピロンシートA	セピロンシートA	セピロンコートQV 0.3kg/m ²
3	セピロンコートQV 1.1kg/m ²	セピロンコートQV 1.1kg/m ²	セピロンコートQV 1.1kg/m ²	クロスKまたは セピロクロスG
4	セピロンコートQ 1.6kg/m ²	セピロンコートQ 1.5kg/m ²	セピロンコートQ 2.2kg/m ²	セピロンコートQV 1.2kg/m ²
5	セピロントップコートQ 0.2kg/m ²	セピロンコートQ 1.4kg/m ²	セピロンコートQ 2.0kg/m ²	セピロンコートQV 1.1kg/m ²
6	—	セピロントップコートQ 0.2kg/m ²	セピロントップコートQ 0.2kg/m ²	セピロントップコートQ 0.2kg/m ²
7	—	—	—	—
備 考	—	■公共建築仕様 X-1同等 ■JASS8仕様 L-USS同等	—	■公共建築仕様 X-2同等 ■JASS8仕様 L-UFS同等



※公共建築仕様X-1に準ずる場合は出入隅部に補強塗りを行ってください。

高耐候・遮熱仕上材

仕様記号	種 類	工 程 1	工 程 2
S	高耐候	セピロントップコートQ 0.15kg/m ²	セピロントップコートSi 0.15kg/m ²
Z	遮熱	セピロントップクール 0.15kg/m ²	セピロントップクール 0.15kg/m ²

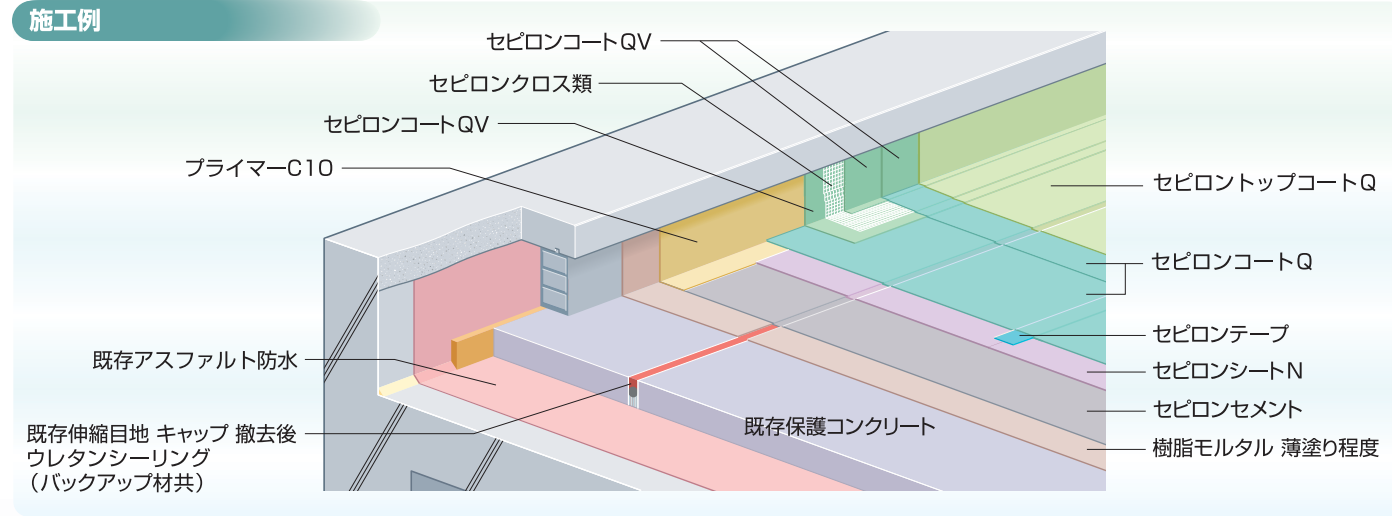
※仕様記号はP.4「仕様の見方」をご参照ください。

環境配慮型

屋上防水仕様（絶縁工法）

穴なしタイプ

	平 場	平 場	平 場	立上り(共通)
	UD-20QNC	UD-30QNC	UD-40QNC	UF-20QVC
防水材 使用量	2.6kg/m ²	3.9kg/m ²	5.2kg/m ²	2.6kg/m ²
平均 塗膜厚	2.0mm	3.0mm	4.0mm	2.0mm
1	セピロンセメント 0.3kg/m ²	セピロンセメント 0.3kg/m ²	セピロンセメント 0.3kg/m ²	プライマーC10 0.2kg/m ²
2	セピロンシートN	セピロンシートN	セピロンシートN	セピロンコートQV 0.3kg/m ²
3	セピロンコートQ 1.0kg/m ²	セピロンコートQ 2.0kg/m ²	セピロンコートQ 1.0kg/m ²	クロスKまたは セピロクロスG
4	セピロンコートQ 1.6kg/m ²	セピロンコートQ 1.9kg/m ²	セピロンコートQ 2.2kg/m ²	セピロンコートQV 1.2kg/m ²
5	セピロントップコートQ 0.2kg/m ²	セピロントップコートQ 0.2kg/m ²	セピロンコートQ 2.0kg/m ²	セピロンコートQV 1.1kg/m ²
6	—	—	セピロントップコートQ 0.2kg/m ²	セピロントップコートQ 0.2kg/m ²
7	—	—	—	—
備 考	—	■公共建築仕様 X-1同等 ■JASS8仕様 L-USS同等	—	■公共建築仕様 X-2同等 ■JASS8仕様 L-UFS同等



※公共建築仕様X-1に準ずる場合は出入隅部に補強塗りを行ってください。

注意事項

- プライマーC10に替えてプライマーC3を使用することもできます。
- プライマーC10は、プライマーC1とポルトランドセメントを1:1の割合で混合したものです。
- シルバー仕上げとする場合は、トップコートQに替えてセピロンシルバー(0.2kg/m²)を使用します。
- 粗面仕上げとする場合は、P.17「粗面仕上げの方法」をご参照ください。
- 必要に応じて、セピロンセメントに替えて溶剤タイプのセピロンボンド(0.3kg/m²)を使用することもできます。
- パラペット、底の部位については、セピロンコートQに替えてセピロンコートQVを使用することもできます。
- 3日以内に次工程に移れない場合は、プライマーM4処理を行ってから、次工程の塗布を行ってください。(P.23参照)
- 施工対象下地によってプライマーを使い分ける場合があります。(P.20「プライマーの選択」参照)
- 絶縁工法には、脱気太郎(脱気筒)を併用することをお勧めします。

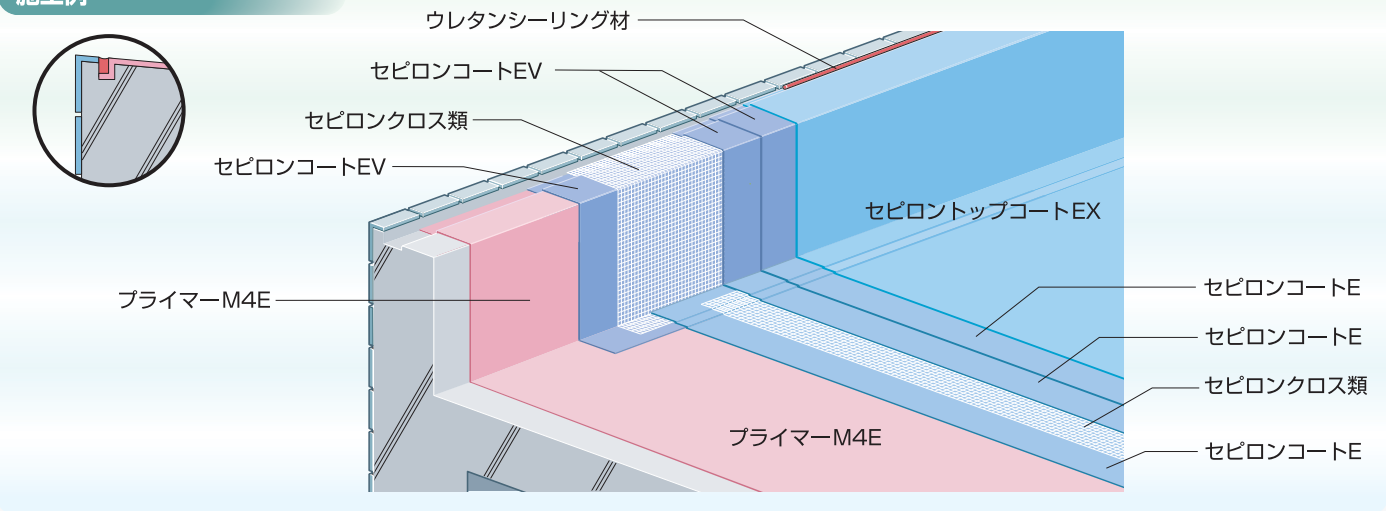
環境対応型 屋上防水仕様（密着工法）

	平 場	平 場	平 場	立上り(共通)
	UF-20EX	UF-30EX	UF-40EX	UF-20EVX
防水材 使用量	2.6kg/m ²	3.9kg/m ²	5.2kg/m ²	2.6kg/m ²
平均 塗膜厚	2.0mm	3.0mm	4.0mm	2.0mm
1	プライマーM4E 0.2kg/m ²	プライマーM4E 0.2kg/m ²	プライマーM4E 0.2kg/m ²	プライマーM4E 0.2kg/m ²
2	セピロンコートE 0.3kg/m ²	セピロンコートE 0.3kg/m ²	セピロンコートE 0.3kg/m ²	セピロンコートEV 0.3kg/m ²
3	クロスKまたは セピロクロスG	クロスKまたは セピロクロスG	クロスKまたは セピロクロスG	クロスKまたは セピロクロスG
4	セピロンコートE 1.2kg/m ²	セピロンコートE 2.0kg/m ²	セピロンコートE 1.7kg/m ²	セピロンコートEV 1.2kg/m ²
5	セピロンコートE 1.1kg/m ²	セピロンコートE 1.6kg/m ²	セピロンコートE 1.6kg/m ²	セピロンコートEV 1.1kg/m ²
6	セピロントップコートEX 0.2kg/m ²	セピロントップコートEX 0.2kg/m ²	セピロンコートE 1.6kg/m ²	セピロントップコートEX 0.2kg/m ²
7	—	—	セピロントップコートEX 0.2kg/m ²	—
備 考	—	■公共建築仕様 X-2同等 ■JASS8仕様 L-UFS同等	—	■公共建築仕様 X-2同等 ■JASS8仕様 L-UFS同等

環境対応型 ベランダ、パラペット、庇用（密着工法）

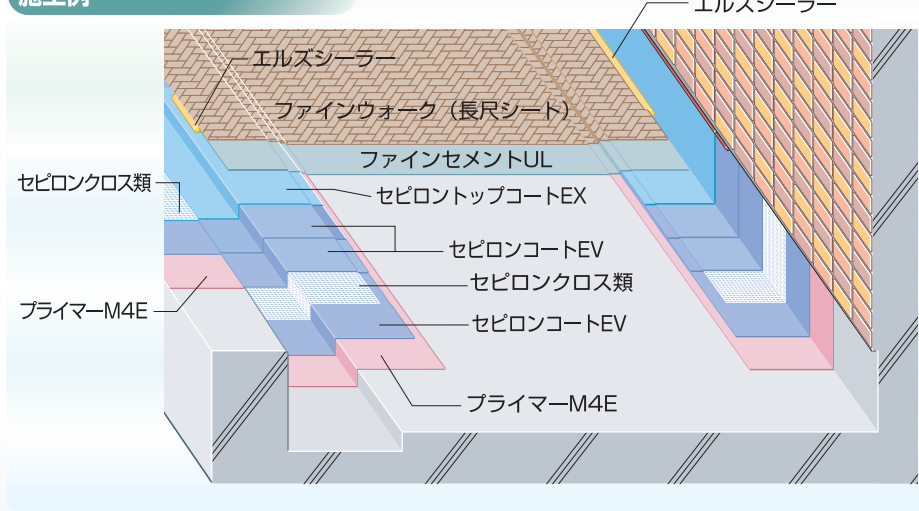
	平 場	立上り	平 場	立上り	平 場	立上り
	UB-15EX	UB-15EVX	UB-20EX	UB-20EVX	UB-30EX	UB-20EVX
防水材 使用量	2.0kg/m ²		2.6kg/m ²		3.9kg/m ²	2.6kg/m ²
平均 塗膜厚	1.5mm		2.0mm		3.0mm	2.0mm
1	プライマーM4E 0.2kg/m ²	プライマーM4E 0.2kg/m ²	プライマーM4E 0.2kg/m ²	プライマーM4E 0.2kg/m ²	プライマーM4E 0.2kg/m ²	プライマーM4E 0.2kg/m ²
2	セピロンコートE 2.0kg/m ²	セピロンコートEV 1.0kg/m ²	セピロンコートE 0.3kg/m ²	セピロンコートEV 0.3kg/m ²	セピロンコートE 0.3kg/m ²	セピロンコートEV 0.3kg/m ²
3	セピロントップコートEX 0.2kg/m ²	セピロンコートEV 1.0kg/m ²	クロスKまたは※ セピロクロスG	クロスKまたは※ セピロクロスG	クロスKまたは セピロクロスG	クロスKまたは セピロクロスG
4	—	セピロントップコートEX 0.2kg/m ²	セピロンコートE 1.2kg/m ²	セピロンコートEV 1.2kg/m ²	セピロンコートE 2.0kg/m ²	セピロンコートEV 1.2kg/m ²
5	—	—	セピロンコートE 1.1kg/m ²	セピロンコートEV 1.1kg/m ²	セピロンコートE 1.6kg/m ²	セピロンコートEV 1.1kg/m ²
6	—	—	セピロントップコートEX 0.2kg/m ²	セピロントップコートEX 0.2kg/m ²	セピロントップコートEX 0.2kg/m ²	セピロントップコートEX 0.2kg/m ²
7	—	—	—	—	—	—
備 考	パラペット、庇のみ適用		※工程3を省略することもできます。 その際は、「クロスなしの場合」をご参照ください。		■公共建築仕様 X-2同等 ■JASS8仕様 L-UFS同等	

施工例



※公共建築仕様X-2に準ずる場合は出入隅部に補強塗りを行ってください。

施工例



※公共建築仕様X-2に準ずる場合は出入隅部に補強塗りを行ってください。

● クロスなしの場合

	平 場	立 上 り
1	プライマーM4E 0.2kg/m ²	プライマーM4E 0.2kg/m ²
2	セピロンコートE 1.3kg/m ²	セピロンコートEV 0.6kg/m ²
3	セピロンコートE 1.3kg/m ²	セピロンコートEV 1.0kg/m ²
4	セピロントップコートEX 0.2kg/m ²	セピロンコートEV 1.0kg/m ²
5	—	セピロントップコートEX 0.2kg/m ²

高耐候・遮熱仕上材

仕様記号	種 類	工程1	工程2
W	高耐候	セピロントップコートEX 0.15kg/m ²	セピロントップコートEX 0.15kg/m ²
Z	遮熱	セピロントップクール 0.15kg/m ²	セピロントップクール 0.15kg/m ²

※仕様記号はP.4「仕様の見方」をご参照ください。

注意事項

- プライマーM4Eに替えてプライマーC3を使用することもできます。
- スポーツ床仕上げとする場合は、弊社担当者へご相談ください。
- 粗面仕上げとする場合は、P.17「粗面仕上げの方法」をご参照ください。
- 3日以内に次工程に移れない場合は、プライマーM4処理を行ってから、次工程の塗布を行ってください。（P.23参照）
- パラペット、庇の部位については、セピロンコートEに替えてセピロンコートEVを使用することもできます。

環境対応型 屋上防水仕様（絶縁工法）

穴ありタイプ

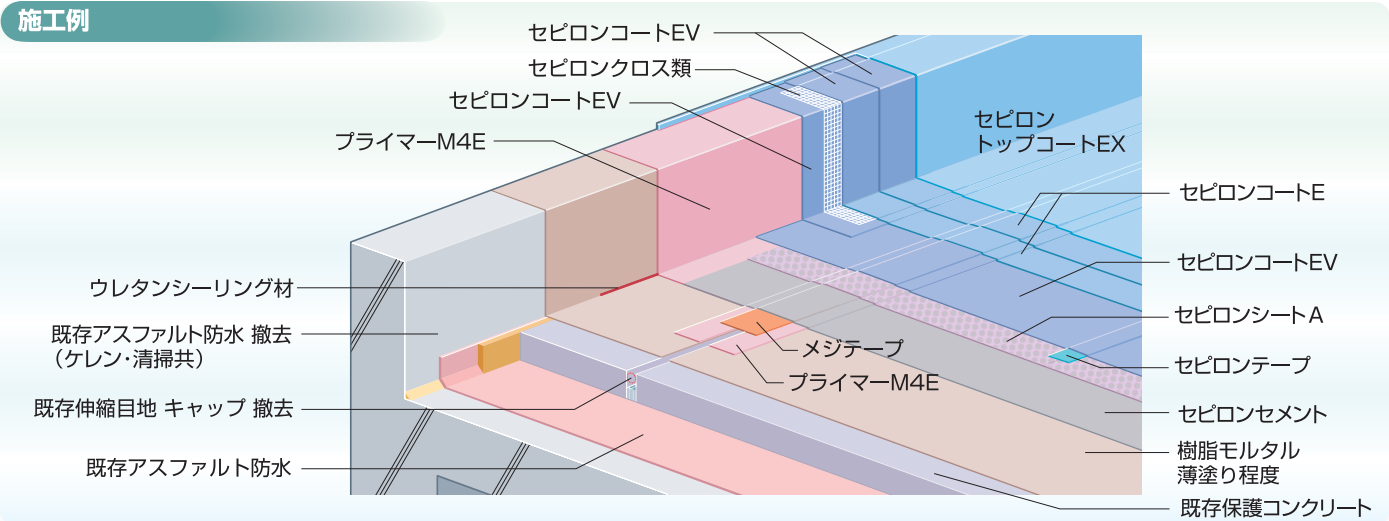
	平場 UD-20EAX	平場 UD-30EAX	平場 UD-40EAX	立上り(共通) UF-20EVX
防水材 使用量	2.7kg/m ²	4.0kg/m ²	5.3kg/m ²	2.6kg/m ²
平均 塗膜厚	2.0mm	3.0mm	4.0mm	2.0mm
1	セピロンセメント 0.3kg/m ²	セピロンセメント 0.3kg/m ²	セピロンセメント 0.3kg/m ²	プライマー-M4E 0.2kg/m ²
2	セピロンシート A	セピロンシート A	セピロンシート A	セピロンコートEV 0.3kg/m ²
3	セピロンコートEV 1.1kg/m ²	セピロンコートEV 1.1kg/m ²	セピロンコートEV 1.1kg/m ²	クロスKまたは セピロクロスG
4	セピロンコートE 1.6kg/m ²	セピロンコートE 1.5kg/m ²	セピロンコートE 2.2kg/m ²	セピロンコートEV 1.2kg/m ²
5	セピロントップコートEX 0.2kg/m ²	セピロンコートE 1.4kg/m ²	セピロンコートE 2.0kg/m ²	セピロンコートEV 1.1kg/m ²
6	—	セピロントップコートEX 0.2kg/m ²	セピロントップコートEX 0.2kg/m ²	セピロントップコートEX 0.2kg/m ²
7	—	—	—	—
備 考	—	■公共建築仕様 X-1同等 ■JASS 8仕様 L-USS同等	—	■公共建築仕様 X-2同等 ■JASS 8仕様 L-UFS同等

環境対応型 屋上防水仕様（絶縁工法）

穴なしタイプ

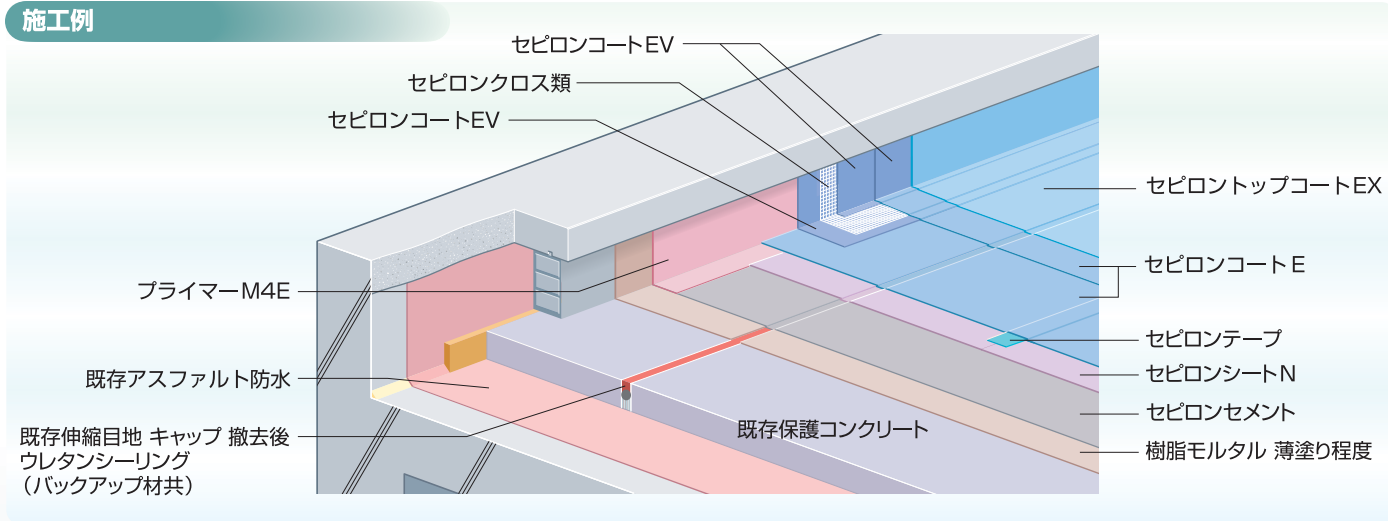
	平場 UD-20ENX	平場 UD-30ENX	平場 UD-40ENX	立上り(共通) UF-20EVX
防水材 使用量	2.6kg/m ²	3.9kg/m ²	5.2kg/m ²	2.6kg/m ²
平均 塗膜厚	2.0mm	3.0mm	4.0mm	2.0mm
1	セピロンセメント 0.3kg/m ²	セピロンセメント 0.3kg/m ²	セピロンセメント 0.3kg/m ²	プライマー-M4E 0.2kg/m ²
2	セピロンシートN	セピロンシートN	セピロンシートN	セピロンコートEV 0.3kg/m ²
3	セピロンコートE 1.0kg/m ²	セピロンコートE 2.0kg/m ²	セピロンコートE 1.0kg/m ²	クロスKまたは セピロクロスG
4	セピロンコートE 1.6kg/m ²	セピロンコートE 1.9kg/m ²	セピロンコートE 2.2kg/m ²	セピロンコートEV 1.2kg/m ²
5	セピロントップコートEX 0.2kg/m ²	セピロントップコートEX 0.2kg/m ²	セピロンコートE 2.0kg/m ²	セピロンコートEV 1.1kg/m ²
6	—	—	セピロントップコートEX 0.2kg/m ²	セピロントップコートEX 0.2kg/m ²
7	—	—	—	—
備 考	パラペット、底のみ適用	■公共建築仕様 X-1同等 ■JASS 8仕様 L-USS同等	—	■公共建築仕様 X-2同等 ■JASS 8仕様 L-UFS同等

施工例



※公共建築仕様X-1に準ずる場合は出入隅部に補強塗りを行ってください。

施工例



※公共建築仕様X-1に準ずる場合は出入隅部に補強塗りを行ってください。

高耐候・遮熱仕上材

仕様記号	種 類	工程1	工程2
W	高耐候	セピロントップコートEX 0.15kg/m ²	セピロントップコートEX 0.15kg/m ²
Z	遮熱	セピロントップクール 0.15kg/m ²	セピロントップクール 0.15kg/m ²

※仕様記号はP.4「仕様の見方」をご参照ください。

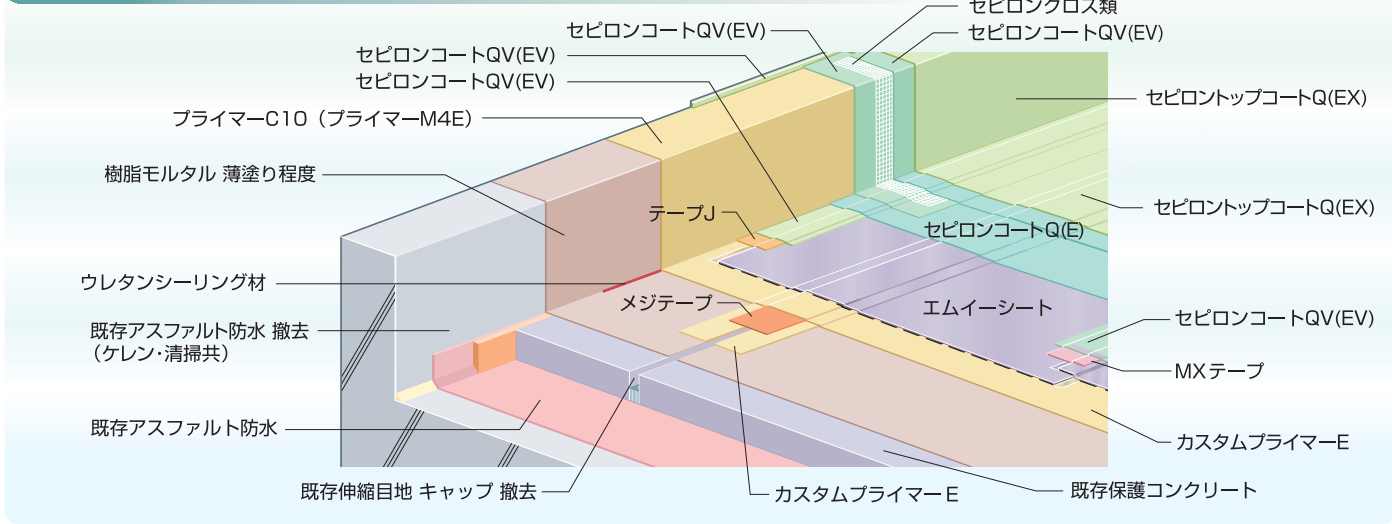
注意事項

- プライマー-M4Eに替えてプライマー-C3を使用することもできます。
- 粗面仕上げとする場合は、P.17「粗面仕上げの方法」をご参照ください。
- 3日以内に次工程に移れない場合は、プライマー-M4処理を行ってから、次工程の塗布を行ってください。（P.23参照）
- パラペット、底の部位については、セピロンコートEに替えてセピロンコートEVを使用することもできます。
- 絶縁工法には、脱気太郎（脱気筒）を併用することをお勧めします。

■ 屋上防水仕様（改質アスファルト複合絶縁工法）

	環境配慮型		環境対応型	
	平場	立上り(クロス)	平場	立上り(クロス)
	UM-30QC	UF-20QVC	UM-30EX	UF-20EVX
防水材 使用量	3.9kg/m ²	2.6kg/m ²	3.9kg/m ²	2.6kg/m ²
平均 塗膜厚	3.0mm	2.0mm	3.0mm	2.0mm
1	カスタムプライマーE 0.2kg/m ²	プライマーC10 0.2kg/m ²	カスタムプライマーE 0.2kg/m ²	プライマーM4E 0.2kg/m ²
2	エムイーシート (ジョイントの処理)	セピロンコートQV 0.3kg/m ²	エムイーシート (ジョイントの処理)	セピロンコートEV 0.3kg/m ²
3	セピロンコートQ 2.0kg/m ²	クロスKまたは セピロンクロスG	セピロンコートE 2.0kg/m ²	クロスKまたは セピロンクロスG
4	セピロンコートQ 1.9kg/m ²	セピロンコートQV 1.2kg/m ²	セピロンコートE 1.9kg/m ²	セピロンコートEV 1.2kg/m ²
5	セピロントップコートQ 0.2kg/m ²	セピロンコートQV 1.1kg/m ²	セピロントップコートEX 0.2kg/m ²	セピロンコートEV 1.1kg/m ²
6	—	セピロントップコートQ 0.2kg/m ²	—	セピロントップコートEX 0.2kg/m ²
備考	■公共建築仕様 X-1同等 ■JASS8仕様 L-USS同等	■公共建築仕様 X-2同等 ■JASS8仕様 L-UFS同等	■公共建築仕様 X-1同等 ■JASS8仕様 L-USS同等	■公共建築仕様 X-2同等 ■JASS8仕様 L-UFS同等

施工例 UM-30…, UF-20…共通

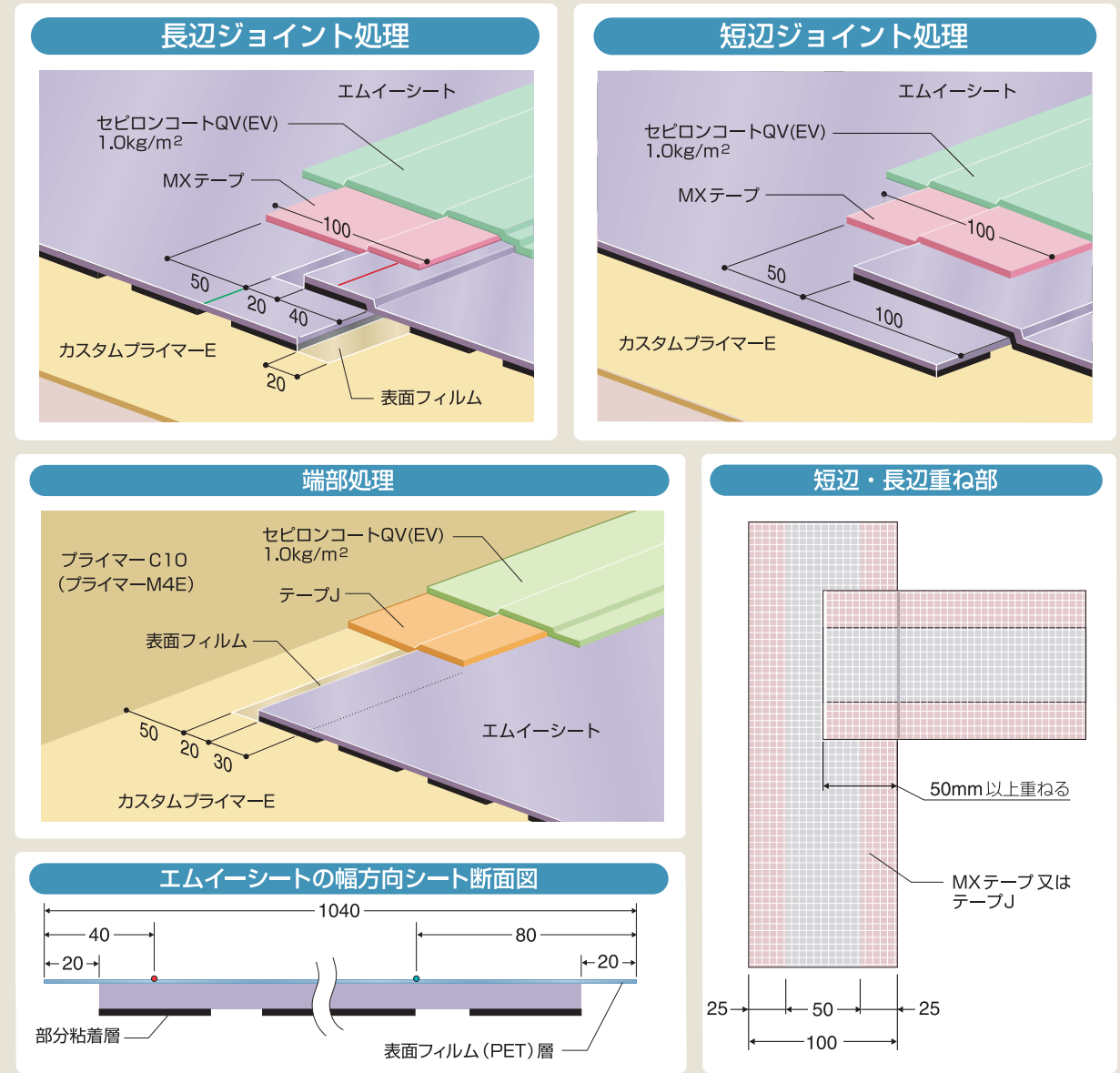


※公共建築仕様X-1に準ずる場合は出入隅部に補強塗りを行ってください。
※括弧内は環境対応型工法の製品です。

注意事項

- プライマーC10に替えてプライマーC3を使用することもできます。
- 寒冷期には、カスタムプライマーEに替えてカスタムプライマーを使用することも出来ます。（環境配慮型のみ）
- プライマーC10は、プライマーC1とポルトランドセメントを1：1の割合で混合したものです。（環境配慮型のみ）
- シルバー仕上げとする場合は、トップコートQに替えてセピロンシルバー（0.2kg/m²）を使用します。
- 粗面仕上げとする場合は、P.17「粗面仕上げの方法」をご参照ください。
- 脱気太郎（脱気筒）を併用することをお勧めします。
- エムイーシート裏面の粘着層は接着剤（0.3kg/m²）と同様の働きをします。
- 3日以内に次工程に移れない場合は、プライマーM4処理を行ってから、次工程の塗布を行ってください。（P.23参照）
- 施工対象下地によってプライマーを使い分ける場合があります。（P.20「プライマー選択」参照）

施工詳細図



作業内容と注意事項

- プライマーの塗布** エムイーシートの端末部分（入隅・コーナー周辺）は特に入念に塗布します。（薄塗り禁止）
- 墨出し・割り付け** 入隅線から50mm程度離れた位置に基準線を引き、墨出し作業を行います。
- エムイーシートの張り付け** 墨出し線に沿ってエムイーシートを一旦展開し、端末は入隅線から50mm程度離れた位置でカットします。
※張り始めシートの表面の赤ラインを水下側にします。
① 展開し、位置決めしたシート的一方を一人が足で動かない様に固定し、もう一人がもう片側から約半分の位置までシートを巻き戻し、巻き戻したシートのフィルムをハサミ、カッターでカットします。
※シート自体を切らないように注意してください。
② カットした剥離フィルムを手に持ち、剥離フィルムをゆっくり引きながら、シートを展開し下地に張り付けます。
③ 張り付け後、もう半分の片側のシートを巻き戻し、同様に剥離フィルムをゆっくり引きながら、シートを展開し下地に張り付けます。
④ 次に張り付けるシートは、赤線側の端部を、既に張り付けたシートの緑線に合わせて、シートの位置決めをします。
⑤ 1巻のシートを張り付けたらすぐに全面をゴムローラーで十分に転圧してください。（ローラー刷毛による転圧はしないでください）
- 長辺部、ジョイント処理** 長辺部はシート同士を40mm程度重ねます。
- 短辺部・重ね処理** 短辺部はシート同士を100mm程度重ねます。
- シート端末の跳ね上がり・反り・浮き防止処理** シートの芯材（ボール紙の芯）に近いほど、巻き癖があります。強い巻き癖は、短辺部や端末部の跳ね上がりや浮きになる場合があります。短辺部や端末部は、シートを張り付ける前に一旦、シートの巻き癖を取るために反対側（内側）に巻き戻して、テンションを掛けて癖を取って下さい。
- 端末処理** エムイーシートの端末部が浮いていない事を確認した後、エムイーシートの端末（外周）にテープJ（プチルテープ）を張り付け転圧します。
※エムイーシートに浮きや反りがある場合は、必ずこの段階で修正・癖取りを行います。（ウレタン塗膜防水材を塗布する前に修正する）
増し塗り処理MXテープ及びテープJの上に、セピロンコートQ（E）Vを塗布し、増し塗ります。セピロンコートの刷毛目等が残ると、仕上がりに影響が出る場合がありますので、増し塗りは平滑に仕上げてください。

公共建築（改修）工事標準仕様書対応仕様

“平成 25 年版 公共建築工事標準仕様書”並びに“平成 25 年版 公共建築改修工事標準仕様書”に適合するセピロン防水工法の仕様は、次の通りです。

公共建築（改修）工事標準仕様

種 別	X-1		X-2		X-2 立上り	
工 程	材料・工法	使用量 (kg/m ²)	材料・工法	使用量 (kg/m ²)	材料・工法	使用量 (kg/m ²)
1	接着剤塗り 通気緩衝シート張り	0.3	プライマー塗り	0.2	プライマー塗り	0.2
2	ウレタンゴム系 塗膜防水材塗り	3.0	ウレタンゴム系塗膜防水材塗り 補強布張り	0.3	ウレタンゴム系 塗膜防水材塗り補強布張り	0.3
3	ウレタンゴム系 塗膜防水材塗り		ウレタンゴム系 塗膜防水材塗り	2.7	ウレタンゴム系 塗膜防水材塗り	1.7
4	仕上塗料塗り	0.2	ウレタンゴム系 塗膜防水材塗り		ウレタンゴム系 塗膜防水材塗り	
5	—	—	仕上塗料塗り	0.2	仕上塗料塗り	0.2

種 別	X-1 対応仕様※	X-2 対応仕様※	X-2 立上り対応仕様※
セピロン 対応仕様	UD-30QA・UD-30QN UM-30Q	UF-30Q	UF-20QV
	UD-30EA・UD-30EN UM-30E	UF-30E	UF-20EV

- ※ 公共建築（改修）工事標準仕様書 X-1・X-2 に対応した場合
● 出隅及び入隅は、幅100mm以上の補強布（セピロンクロス）を用いて補強塗りを行う。

日本建築学会 建築工事標準仕様書対応仕様

“2014年版 日本建築学会 建築工事標準仕様書 JASS8 防水工事”に適合するセピロン防水工法の仕様は、次の通りです。

部位 工程	L-UFS				L-USS			
	平場（RC・PCa下地） （勾配1/50～1/20）		立上り（RC下地）		平場（RC・PCa・ALC下地） （勾配1/50～1/20）		立上り（RC下地）	
工程-1	プライマー塗り （0.2kg/m ² ）		プライマー塗り （0.2kg/m ² ）		通気緩衝シート張付け （0.3kg/m ² ）		プライマー塗り （0.2kg/m ² ）	
工程-2	補強布張付け （ウレタンゴム系） （高伸長形防水材）	3.0kg/m ²	補強布張付け （ウレタンゴム系） （高伸長形防水材）	2.0kg/m ²	ウレタンゴム系 高伸長形防水材塗り	3.0kg/m ²	補強布張付け （ウレタンゴム系） （高伸長形防水材）	2.0kg/m ²
工程-3	ウレタンゴム系 高伸長形防水材塗り		ウレタンゴム系 高伸長形防水材塗り		ウレタンゴム系 高伸長形防水材塗り		ウレタンゴム系 高伸長形防水材塗り	
工程-4	ウレタンゴム系 高伸長形防水材塗り		ウレタンゴム系 高伸長形防水材塗り		—		ウレタンゴム系 高伸長形防水材塗り	

部位 工程	軽歩行用仕上塗料	仕上塗料 （平場と同一材料とする）	軽歩行用仕上塗料	仕上塗料 （平場と同一材料とする）
工程-1	軽歩行用仕上塗料塗り （0.2kg/m ² ）	仕上塗料塗り （平場と同一使用量とする）	軽歩行用仕上塗料塗り （0.2kg/m ² ）	仕上塗料塗り （平場と同一使用量とする）

種 別	L-UFS 平場対応仕様	L-UFS 立上り対応仕様	L-USS 平場対応仕様	L-USS 立上り対応仕様
セピロン 対応仕様	UF-30Q	UF-20QV	UD-30QA UD-30QN UM-30Q	UF-20QV
	UF-30E	UF-20EV	UD-30EA UD-30EN UM-30E	UF-20EV

トップコート塗替え仕様

セピロン防水のトップコートは、防水材の耐久性の維持のため、経年により塗り替えることが必要となります。
おおよその塗り替え期間は下記のようになります。

	セピロントップコートQ	セピロントップコートEX	セピロントップコートSi	セピロントップクール	セピロンシルバー
製品概要	アクリルウレタン	（高耐候）アクリルウレタン	（高耐候）アクリルシリコン	（遮熱）アクリルウレタン	（シルバー系）アクリルウレタン
塗替目安	3～5年	3～5年（6～10年※）	8～10年	3～5年	3～5年

※ 括弧内は2回塗りの場合。

● 塗り替えに際しては、下記の仕様となります。（この工事は有償となります）

既存防水工法	仕様記号	下地処理	工 程 1		工 程 2	
セピロンQ工法	UT-QC	高圧洗浄	プライマー M4	0.1kg/m ²	セピロントップコートQ	0.2kg/m ²
	UT-QL	高圧洗浄	プライマー M4	0.1kg/m ²	セピロンシルバー	0.2kg/m ²
	UT-QS	高圧洗浄	プライマー M4	0.1kg/m ²	セピロントップコートSi	0.2kg/m ²
	UT-QZ	高圧洗浄	プライマー M4	0.1kg/m ²	セピロントップクール	0.3kg/m ²
セピロンE工法	UT-EX	高圧洗浄	プライマー M5	0.1kg/m ²	セピロントップコートEX	0.2kg/m ²
	UT-EZ	高圧洗浄	プライマー M5	0.1kg/m ²	セピロントップクール	0.3kg/m ²

※プライマーM4・M5は、希釈して使用してください。（P.23参照）

粗面仕上げの方法

粗面仕上げとする場合は、下記の配合でトップコートと充填材を配合し、ローラー刷毛などで仕上げます。

トップコートの種類		充填材の種類	充填材の配合量（kg）	充填材の配合量（％）
セピロントップコートQ	1セット（14kg）	ゴム粉	0.15	約 1
セピロントップコートQ	1セット（14kg）	トップフィラー	0.42	約 3
セピロントップコートEX	1セット（14kg）	トップフィラー	0.42	約 3
セピロントップコートSi	1セット（15kg）	ゴム粉	0.15	約 1
セピロントップコートSi	1セット（15kg）	トップフィラー	0.42	約 3

※セピロントップクールにも添加可能ですが、日射反射率の低下が見られます。添加方法は、セピロントップコートQと同様です。
※2回塗りの場合は2工程目のみ充填材を配合します。

高耐候性仕上げの方法

セピロンQ、E工法は、耐候性、耐汚染性に優れた高耐候性トップコート仕上げとすることが出来ます。

工 法 名	トップコート		標準塗布量
	工 程 1	工 程 2	
セピロンQ工法	セピロントップコートQ	セピロントップコート Si	各 0.15kg/m ²
セピロンE工法	セピロントップコートEX	セピロントップコートEX	各 0.15kg/m ²

セピロン防水の施工上の注意

下地について

- 1 下地の乾燥
- 下地の乾燥が不十分な状態で防水工事を行うと、後々の防水層の膨れの原因となる場合があります。特に新設のコンクリート（モルタル）は、夏期で3週間、冬期で4週間以上の養生が必要となります。
- 下記のような方法で下地の乾燥具合を確認した後、防水の施工を行ってください。
- 高周波水分計により下地水分を計測（8wt%以下）
- 2 下地の調整
- ①出隅部、入隅部の処理

入隅部は通りよく直角仕上げとしてください。出隅部は、3～5mm程度の面取りを行ってください。
- ②下地の不陸調整

下地の凸部分や突起異物は、サンダーなどで除去してください。また、下地の欠損部分や水溜まりのできる箇所は、下地調整材の「セピロンモルタル」などで平滑に仕上げてください。
- ③下地勾配の確認

下地の勾配は1/100～5/100の範囲に納まるようにしてください。勾配の調整には「セピロンモルタル」等で処理してください。
- ④下地の浮き

下地の浮きのある場合や脆弱な部分があるときは、その部分を斫り取った後「セピロンモルタル」等で平滑に仕上げてください。

下地の浮きが小さな場合にはエポキシ系の注入材で処理することもできます。
- ⑤下地のクラック部の処理

下地に1mm以上のクラックが生じている部分はUカットし、ウレタン系シーリング材を充填して、平滑に処理してください。
- ⑥下地の清掃

塵埃、脂分、接着剤などの下地表面の汚れは、下地の清掃とともに除去してください。又、レイトンスは除去して、下地の脆弱部分も処理しておいてください。
- 3 目地の処理
- 下地に伸縮目地材がある場合は、既存目地を除去した後にパッカーを埋め込み、ウレタン系シーリング材を充填してください。PCa下地の目地の場合は、補強布「クロスK」や「セピロンクロスG」を用いて「セピロンコートQ（又はE）」の補強塗りを行ってください。セピロンM工法の場合は、下地の既存目地を除去し、メジテープで処理します。メジテープは予めプライマーを塗布した後に施工し、浮きのないように転圧します。その際、メジテープは目地1スパンの長さで切断して貼り付け、メジテープの間は5mm程度開けます。
- ※メジテープ施工直後は、膨れることがありますので、脱気装置を50㎡に1個程度を目安に併用してください。
- 4 貫通パイプ回りの処理
- 金属製パイプは錆や塗料を除去した後、樹脂製パイプは目荒らしの処理後、専用プライマーを塗布し、補強布「クロスK」や「セピロンクロスG」「セピロンクロスKN」を用いて、防水材の補強塗りを行ってください。
- 5 改修用ドレンの設置
- 下地の既存ドレンの状況など必要に応じて「マルエス鉛・銅ドレン」を設置してください。

セピロンモルタル（現場調合）

- 主としてモルタルミキサーを使用します。
- ①3mm厚仕上げ 配合例（約5㎡）

2.0～4.0kg

2.0kg

25.5kg

0～0.5kg

セピロンラテックス

+

清水

混練

セメント……………8.5kg※

6号珪砂……………17.0kg

清水

調整

※あらかじめ空練りする
- ②10mm厚仕上げ 配合例（約2㎡）

2.0～4.0kg

2.0kg

34.4kg

0～1.0kg

セピロンラテックス

+

清水

混練

セメント……………8.6kg※

5号/6号=1/1珪砂…25.8kg

清水

調整

※あらかじめ空練りする

改修工事における既存防水層の処理

既存防水層の種類	部位	既存防水層・保護層の処理	
		非 撤 去	撤 去
露出防水	平 場	著しい膨れ、浮きは修繕をする。	下地の損傷に注意して防水層、断熱層を撤去し、下地調整を行う。
	立上り	原則として下地の損傷に注意して防水層を撤去し、下地調整を行う。	下地の損傷に注意して防水層を撤去し、下地調整を行う。
保護防水	平 場	下地調整を行う。 目地の処理を行う。	下地の損傷に注意して防水層、保護層、断熱層を撤去し、下地調整を行う。
	立上り	原則として下地の損傷に注意して防水層、保護層を撤去し、下地調整を行う。	下地の損傷に注意して防水層、保護層を撤去し、下地調整を行う。

セピロン防水の施工環境

- 1 下地の乾燥
- ①施工時の気温

「セピロンコートQ（又はE）」は材料温度が-5℃の低温時にも施工は可能ですが、施工面に結氷や霜が付着すると下地への接着不良を起こしますので、施工にあたっては気候の条件に十分な注意を払ってください。
- ②施工の中止

降雨、降雪、強風が予想される場合は施工を中止してください。
- 2 防水材料の粘度調整
- 気温その他施工にあって「セピロンコートQ」や「セピロンコートE」の材料粘度を調整しなければならない場合には、次の通り必ず指定の希釈剤を使用してください。その際の使用量の限度は、主剤と硬化剤の合計量の重量5%以内としてください。
- セピロンコートQの場合は、キシレンを使用してください。
 - セピロンコートEの場合は、非芳香族系の低臭環境対応型希釈剤「NSソルベント」を使用してください。尚、アルコール類が含有されているエポキシ樹脂用シンナーや塗料用シンナーの使用は反応を阻害しますので絶対に使用しないでください。

セピロン防水施工の安全管理

- 1 保護具の着用
- 「セピロンコートQ」、「セピロンコートE」はウレタン塗膜防水材の中で、極めて有害性物質の少ない製品ですが、取り扱いにあたっては保護具、安全帽、保護眼鏡、保護手袋、保護マスクの着用を励行してください。
- 2 危険物の取り扱い
- セピロン防水工法のシステムのうち幾つかは消防法で定める危険物に該当します。施工にあたって、材料の運搬、保管、貯蔵や取り扱いについて十分に配慮してください。
- 3 作業環境の管理
- 防水施工にあたっては、常に作業上の危険や事故防止に配慮してください。また、施工現場ばかりでなく、周辺地域に対しても十分な配慮をしてください。

セピロン防水攪拌注意事項

- 1 セピロンコート類
- ①硬化剤は予め攪拌機を用いて攪拌しておく。

②主剤を別のポリバケツに移す。

③主剤に少しずつ硬化剤を入れながら攪拌する。
- 2 セピロントップコート類

①硬化剤を攪拌する。（缶を振る程度）

②硬化剤をポリバケツに移す。

③硬化剤に少しずつ主剤を入れながら攪拌する。

注意事項

攪拌機は低回転型（300～600回転／分程度 3枚羽根を標準）を使用してください。ロットの違うセピロントップコートを混合しないでください。
- セピロン防水層の維持管理
- セピロン防水層の健全を保ち、長期にわたって防水性能を維持するためには、施工後からの維持管理が重要です。施主および建物管理者に以下のような管理をお願い致します。
- 1 維持管理のお願い

① 定期的に点検・清掃を行い、飛来物や排水溝の泥、枯葉等の詰まりを除去し、水溜まりのないようにしてください。

② 保護の塗料が薄くなっている、剥離を起こしている、ひび割れがある等の異常が認められた場合は、施工業者に連絡してください。

③ 防水仕上塗料「セピロントップコートQ（又はEX）」の塗替えの目安は凡そ3～5年程度です。※

2 使用上の注意

① ハイヒールやスパイクシューズなどで歩行すると、防水層を損傷する恐れがあります。防水層上を歩行する場合はゴム底の履物、またはスリッパを使用してください。

② 防水層の上で火気を使用しないでください。タバコの吸い殻の投げ捨てや花火をすると、防水層の損傷の原因となります。

③ 溶剤、ガソリン、不凍液等の薬品をこぼさないでください。防水層が軟化し、膨れや剥がれを生ずる原因となります。

④ 重量物を引きずったり、落としたりしないでください。

⑤ イス、テーブル等を置く場合は、脚をゴム等で保護してください。

⑥ ゴルフや一輪車の練習は行わないでください。

⑦ 防水層の上で犬、ウサギ、鶏等のペットは飼わないでください。糞尿は防水層を劣化させます。

⑧ 洗浄には中性洗剤以外の洗剤は使用しないでください。

⑨ クーリングタワーに使用する防藻剤や殺菌剤は、種類によって防水層に損傷を与えますのでご注意ください。

⑩ 表面が水で濡れている場合は、滑りやすいので歩行する場合は注意してください。

※「トップコート」塗替えの目安はP.17をご参照ください。

防水層の補修、仕上塗料の塗り替えは専門技術が必要です。弊社又は専門工事に依頼してください。（有償）

18

19

プライマーの選択

セピロン防水工法は、施工対象となる下地によって、次のようにプライマーを使い分けます。

- ◎：適用可能
 - ：適用可能（層間プライマーとしても可能ですが、トップコートの層間は不可となります。）
 - ：溶剤（キシレン）でよく拭き取った後に、プライマー塗布を行ってください。
 - ：サンディング後、さらに溶剤（キシレン）でよく拭き取った後にプライマー塗布を行ってください。
- 空欄：適用不可

製品名	セピロン防水用プライマー					
	C10・C30※1	C2	M2	M3	M4・M5※2	M4E
成分	溶剤系 ウレタン	溶剤系 ウレタン	溶剤系 変性ウレタン	溶剤系 クロロプレン	溶剤系 エポキシウレタン	水性エポキシ
	1成分+セメント	1成分	1成分	2成分	2成分	3成分
荷姿	17kg	16kg	17kg (0.5kg)	主 剤：15kg 硬化剤： 1kg	主 剤：4kg 硬化剤：4kg	A液：4 kg B液：4 kg 粉体：8kg
塗布間隔の目安	3時間～3日	1時間～2日	3時間～2日	1時間～1日	1時間～2日	3時間～3日
コンクリート・モルタル	◎	◎				◎
モルタル下地のベランダ・庇	◎	◎				◎
A L C	◎	◎				◎
石材			◎			
磁器・タイル			◎			
鉄			◎			
アルミニウム			◎			
ステンレス（脱気太郎）			◎			
垂鉛鉄板			◎			
銅板（マルエス銅ドレン）			◎			
鉛（マルエス鉛ドレン）					□	
合板・ベニヤ	◎					
EPDM・加硫ゴム						
塩化ビニル（樹脂パイプ）			◎	◎		
FRP			■			
エポキシ			◎			
SBR系下地調整材	◎	◎	◎			◎
エポキシ系下地調整材	◎	◎	◎			◎
一般ウレタン防水材					◎	○
セピロンコート					◎	○
トップコート塗り継ぎ					◎	

注意点

- ※1：プライマーC10・C30はプライマーC1・C3とセメントを1：1で混合して使用してください。
（現場状況に応じて混合比を変更することもできます）セメントは市販の普通ポルトランドセメントを使用します。
- ※2：プライマーM2適用下地はサンディングを推奨します。
- ※3：プライマーM3は要使い切り（小分け不可）。ゴムシート下地は極力撤去してください。その場合はプライマーM4Eを塗布します。
表面トップコートはサンディング必須、又は各種プライマーで接着試験を行ってください。事前確認にて、既存シートのプライマー塗布による膨潤確認が必要です。
- ※4：希釈については、P.23をご参照ください。
- ※5：表中に塗布量が記載のあるものは、表中を標準とします。各種下地において吸い込みが激しい場合は適宜に塗布量を増やしてください。
- ※6：EVA系下地は、別途ご相談ください。

材料特性

● 防水材

試験事項			製品名	セピロン コートQ	セピロン コートQV	セピロン コートE	セピロン コートEV	JIS A 6021 ウレタンゴム系高伸長形(旧1類)
引張性能	引張強さ (N/mm ²)	試験時温度 23℃	4.9	4.8	5.2	5.0	2.3 以上	
		試験時温度 -20℃	9.5	10	9.9	9.5	2.3 以上	
		試験時温度 60℃	3.7	3.6	3.8	4.0	1.4 以上	
	破断時の 伸び率(%)	試験時温度 23℃	917	770	840	650	450 以上	
		抗張積(N/mm)	試験時温度 23℃	896	740	950	651	280 以上
	破断時の つかみ間の 伸び率(%)	試験時温度 23℃	612	536	510	360	300 以上	
		試験時温度 -20℃	482	470	450	280	250 以上	
		試験時温度 60℃	511	408	440	330	200 以上	
引裂性能	引裂強さ (N/mm)		20	18	22	20	14 以上	
加熱伸縮 性能	伸 縮 率 (%)		－0.3	－0.3	－0.1	－0.3	－4 以上 1.0 以下	
劣化 処理 後の 引張 性能	引張強さ比 (%)	加熱処理	94	100	101	111	80 以上	
		促進暴露処理	76	77	88	102	60 以上	
		アルカリ処理	96	100	110	106	60 以上	
		酸処理	94	85	97	90	80 以上	
	破断時の 伸び率(%)	加熱処理	911	789	860	650	400 以上	
		促進暴露処理	919	700	780	580	400 以上	
		アルカリ処理	910	748	790	600	400 以上	
		酸処理	888	696	820	520	400 以上	
伸び時の劣化性状		加熱処理	異常なし	異常なし	異常なし	異常なし	いずれの試験片にも ひび割れ及び著しい変形が あってはならない	
		促進暴露処理	異常なし	異常なし	異常なし	異常なし		
		オゾン処理	異常なし	異常なし	異常なし	異常なし		
たれ抵抗性能		たれ長さ (mm)		0.0		0.0	いずれの試験体も3.0以下	
		しわの発生	—	異常なし	—	異常なし	いずれの試験体にも あってはならない	
固 形 分 (%)			(主 剤)97 (硬化剤)99	(主 剤)97 (硬化剤)99	(主 剤)100 (硬化剤)100	(主 剤)100 (硬化剤)100	表示値 ± 3.0	
硬化物密度 (Mg/m ³)			1.3	1.3	1.3	1.3	表示値 ± 0.1	

● 絶縁シート・補強布

試験事項	製品名	セピロンシートA	セピロンシートN	クロスK	※エムイーシート
質 量 (g/m ²)		220 ～ 260	195 ～ 245	50 ± 2	1000 以上
厚 さ (mm)		1.2 ～ 1.6	1.2 ～ 1.6	0.30 ～ 0.35	1.0
引張強さ (N/5cm)	タテ	170 以上	450 以上	363 以上	40 以上 (N/cm)
	ヨコ	125 以上	350 以上	314 以上	40 以上 (N/cm)
材 質		アクリル／ポリエステル	ポリエステル	ポリエステル	改質アスファルト

※エムイーシートはJIS A 6013の試験方法による。

防水材の可使・硬化時間の目安

セピロンコートQ (通年用)		温度と可使・指触乾燥・歩行可能時間の関係									
気温 (℃)		-5			5			20			35
促進剤添加量※	(g/セット当り)	無	120	150	無	60	120	無	30	60	無
可使時間	(分)	120	60	35	60	30	20	40	30	20	20
指触乾燥	(時間)	22	5	4	8	4	3	4	3.5	3	3
歩行可能時間	(時間)	30	7	5	16	6	4	6	5	4	4

セピロンコートQV (通年用)		温度と可使・指触乾燥・歩行可能時間の関係									
気温 (℃)		-5			5			20			35
促進剤添加量※	(g/セット当り)	無	60	120	無	30	60	無	30	60	無
可使時間	(分)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
指触乾燥	(時間)	9	—	—	8	—	—	4	—	—	—
歩行可能時間	(時間)	16	12	5	9	5	3	5	3	—	—

セピロンコートE (通年用)		温度と可使・指触乾燥・歩行可能時間の関係									
気温 (℃)		-5			5			20			35
促進剤添加量※	(g/セット当り)	無	120	150	無	60	120	無	30	60	無
可使時間	(分)	120	60	35	60	30	20	40	30	20	20
指触乾燥	(時間)	22	5	4	8	4	3	4	3.5	3	3
歩行可能時間	(時間)	30	7	5	16	6	4	6	5	4	4

セピロンコートEV (通年用)		温度と可使・指触乾燥・歩行可能時間の関係									
気温 (℃)		-5			5			20			35
促進剤添加量※	(g/セット当り)	無	60	120	無	30	60	無	30	60	無
可使時間	(分)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
指触乾燥	(時間)	9	—	—	8	—	—	4	—	—	—
歩行可能時間	(時間)	16	12	5	9	5	3	5	3	—	—

※下地の温度、天候、湿度、希釈剤の添加によって硬化時間等に若干の変動があります。指触乾燥で必ず確認の上、次工程に進むようにしてください。

※促進剤は硬化促進剤VIを使用します。各種セピロンコート1セット（18kg）当りの添加量です。

※硬化促進剤は、主剤・硬化剤を混合攪拌後に添加するか、硬化剤にあらかじめ添加して使用します。決して主剤には添加しないでください。

また、使用においては適正な添加量を守ってください。

プライマー・接着剤・トップコートの可使・硬化時間・塗布間隔等の目安

製 品 名	可使時間 (min)	指触乾燥時間 (h)			硬化時間 (h)
	23℃	5℃	23℃	35℃	
プライマー C1	－	13～23	6	5	3時間～3日
プライマー C10	60	5	2	1.5	3時間～3日
プライマー C2	－		1		1時間～2日
プライマー C3	－	13～23	6	5	3時間～3日
プライマー C30	60	5	2	1.5	3時間～3日
プライマー M2	－		3～5		3時間～2日
プライマー M3			1～2		1時間～当日
プライマー M4	60	5	2	1.5	1時間～2日
プライマー M4E	150	～1	～0.5	～0.4	3時間～2日
プライマー M5	60	3	1	1以内	1時間～2日

製品名	可使時間 (min)			指触乾燥時間 (h)			硬化時間 (h)		
	5℃	23℃	35℃	5℃	23℃	35℃	5℃	23℃	35℃
セピロンセメント (S)		50	20					4	2
セピロンセメント (W)	60	30					5	2	
セピロンボンド					10				

製 品 名	可使時間 (min)	指触乾燥時間 (h)			硬化時間 (h)			塗 布 間 隔
	23℃	5℃	23℃	35℃	5℃	23℃	35℃	
セピロントップコートQ	180	3～4	2～3	1～2	6～7	4～5	3～4	3日以内
セピロントップコートEX	180	3～4	2～3			7～8		3日以内
セピロンシルバー	120	3～4	2～3	1～2	7～8	4～5	3～4	3日以内
セピロントップコートSi	180	3～4	2～3			7～8		3日以内
セピロントップクール	180	3～4	2～3	1～2	6～7	4～5	3～4	3日以内

※下地の温度、天候、湿度、希釈剤の添加によって硬化時間等に若干の変動があります。指触乾燥で必ず確認の上、次工程に進むようにしてください。

プライマー・接着剤の硬化促進剤について

製品名	セット量 (kg)	硬化促進剤	添加量 (g/セット)	硬化時間 (h)		
				5℃	10℃	20℃
プライマーC1	17	硬化促進剤V	200	2	1.5	1
プライマーC2	16	硬化促進剤V	200	1	0.5	—
プライマーC3	17	硬化促進剤V	200	—	—	—
プライマーM2	17	硬化促進剤V	200	4	3	2
セピロンセメント (W)	10	硬化促進剤V	5	3		
			10	2		

※下地の温度、天候、湿度、希釈剤の添加によって硬化時間等に若干の変動があります。指触乾燥で必ず確認の上、次工程に進むようにしてください。

※セピロンセメントは、主剤・硬化剤を混合攪拌後に添加するか、硬化剤にあらかじめ添加して使用します。決して主剤には添加しないでください。

また、使用においては適正な添加量を守ってください。

プライマーM4・M5・M4Eの希釈について

塗布する部位	プライマー M4			プライマー M5 *		プライマー M4E
	キシレン	トルエン	酢酸エチル	酢酸エチル	トルエン	
セピロンコート同士の層間	0～20%	0～30%	0～30%	0～30%	0～30%	無希釈
トップコートの層間	20%	30%	30%	50%	50%	使用不可
	(上記いずれか希釈必須)			(上記いずれか希釈必須)		

※環境対応の場合は酢酸エチルを使用してください。

セピロントップコートSiの特長 環境対応型高耐候性トップコート

セピロントップコートSiは、紫外線（UV）に対して有効な構造を持つ『HALS』と、耐久性向上が期待できる『シリコン』・『特殊樹脂』の3種をバランスよく処方した、特殊アクリルシリコン系保護塗料で、優れた耐久性と耐候性を実現します。また、「トルエン・キシレン」等を使用していないため、環境対応から高性能・高品質対応まで幅広く使用できる材料です。

セピロントップコートQの上に重ね塗りする積層仕様で高耐久性トップコートとして使用できるため、トップコートの塗り替え工事を大幅に延長できます。（トップコート塗り替えまでの期間：8～10年）

規格・特長

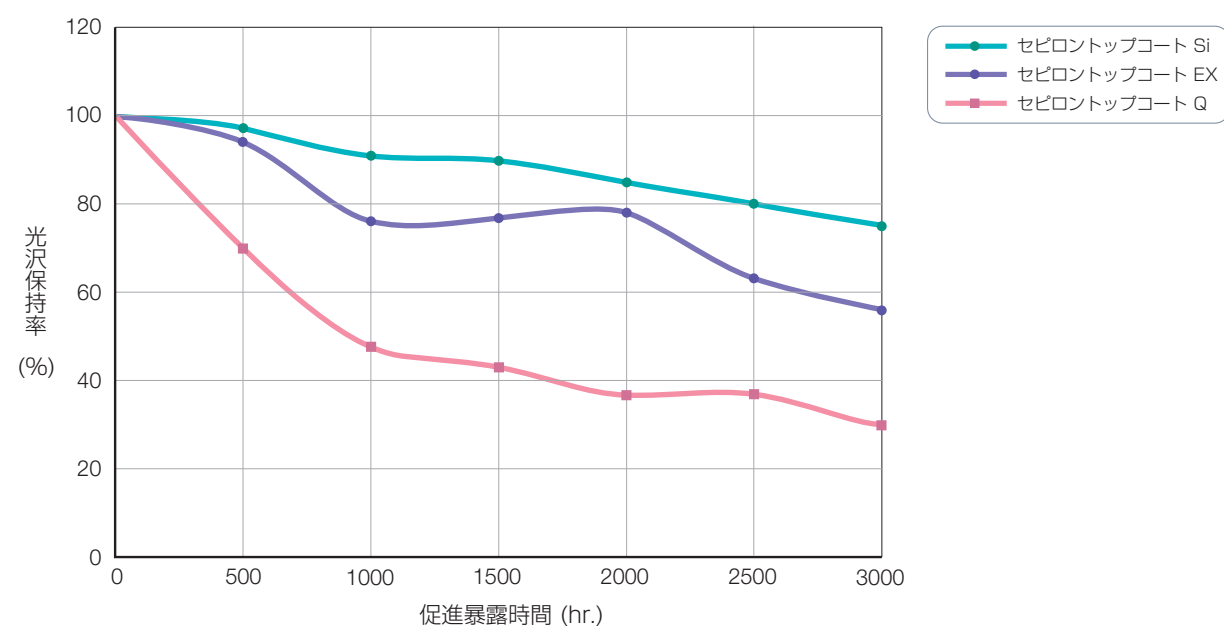
- 主剤 6kg/缶：硬化剤 9kg/缶（重量配合比1:1.5）
- シックハウス症候群誘発物質として規制されている物質を含んでおりません。
- トップコートの塗り替え期間が大幅に延長できます。

各種トップコートの促進耐候性試験結果

■試験方法

- 光沢保持率:初期光沢を100とし、一定期間暴露した時の光沢の保持率を表したもの。
- SWOMIによる促進耐候性試験(60°光沢保持率)※社内試験

■各種トップコートの光沢保持率(単膜)



試験はあくまでも促進暴露試験のデータであり、実際の環境下における品質の保証値ではありません。
また、実際の環境下では暴風・温度・汚れの付着・下塗り材の影響等により光沢保持率は変動します。

セピロントップクールの特長 遮熱性トップコート

セピロントップクールは、セピロン防水用のアクリルウレタン樹脂系トップコートです。近赤外線反射性能に優れた熱反射性顔料を使用することで、薄膜、濃色でも優れた遮熱効果を発揮します。防水層の温度が低減されるため、防水層の保護効果があります。（トップコート塗り替えまでの期間：3～5年）

規格・特長

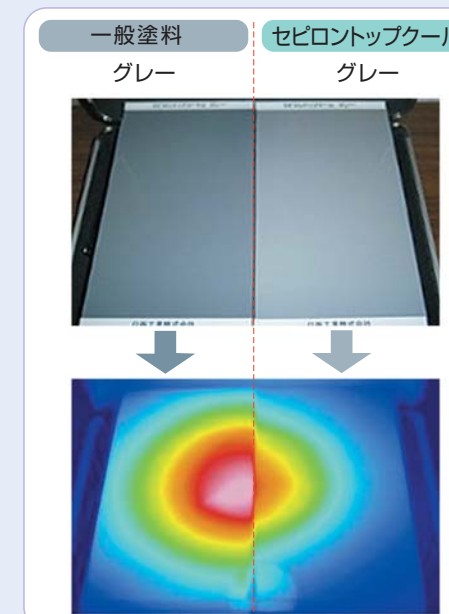
- 主剤 7kg/缶：硬化剤 7kg/缶（重量配合比1:1）
- 日射反射性能に優れた塗料です。（右表参照）

製品名	日射反射率 (%)		
	全波長領域	可視光線領域	近赤外線領域
セピロントップクール グレー	45.8	30.9	65.6
セピロントップクール ホワイト	64.6	57.8	73.6

JIS K 5602「塗膜の日射反射率の求め方」による。 下地:ウレタン塗膜

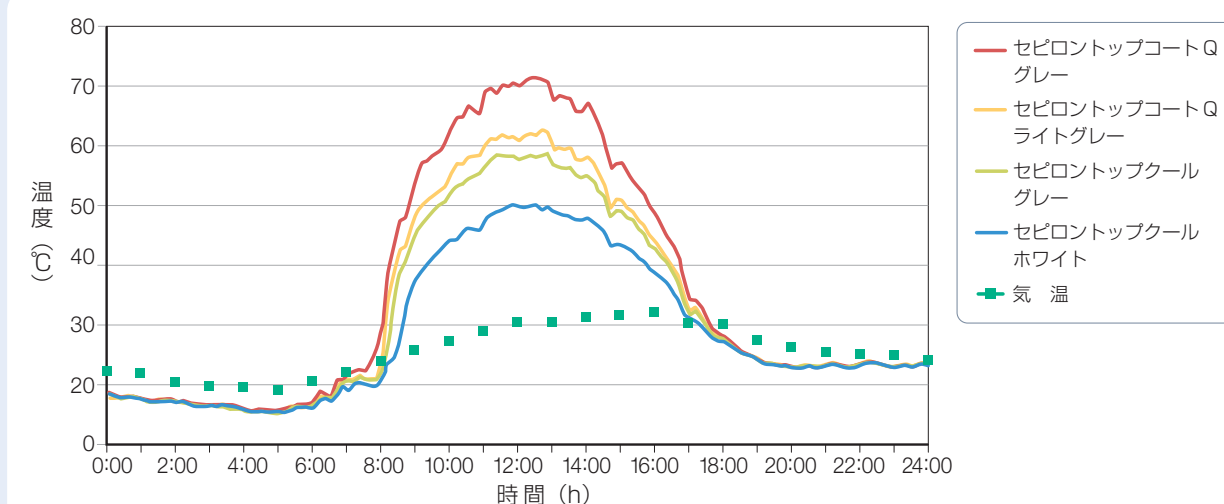
遮熱効果

■ランプ照射によるサーモグラフ画像



測定日時: 平成 25 年 8 月 28 日 測定場所: 埼玉県春日部市

製品名	色調	最高温度	平均温度	最高温度差(℃)
		(℃)	(℃)	Qグレーとの比較
セピロントップクール	グレー	58.8	31.6	-12.7
	ホワイト	50.3	28.9	-21.2
セピロントップコートQ	グレー	71.5	35.5	—
	ライトグレー	62.7	32.7	-8.8



政令別表による危険物の指定数量と主要製品名

種 別	指定数量	性 質	製 品 名
第一石油類	200L (非水溶性)	引火点が21℃未満のもの	プライマーC2、プライマーC3、プライマーM2、プライマーM4(主剤、硬化剤) プライマーM5、セピロントップクール(硬化剤)、セピロントップコートQ(硬化剤) セピロンボンド、セピロンシルバー(硬化剤)
第二石油類	1000L (非水溶性)	引火点が21℃以上70℃未満のもの	プライマーC1、セピロントップコートQ(主剤)、だれ止め剤、NSソルベント キシレン、セピロンシルバー(主剤)、硬化促進剤(V、Ⅵ) セピロントップコートEX(主剤、硬化剤)、トップコートシンナー セピロントップコートSi(主剤、硬化剤)、セピロントップクール(主剤)
第三石油類	2000L (非水溶性)	引火点が70℃以上200℃未満のもの	セピロンコートQ(主剤)、セピロンコートQV(主剤)
第四石油類	6000L	引火点が200℃以上250℃未満のもの	セピロンセメント(主剤)、セピロンコートE(主剤) セピロンコートEV(主剤)
可燃性液体類	2m³	—	セピロンコートQ(硬化剤)、セピロンコートE(硬化剤)

セピロンE工法のVOC(揮発性有機化合物)の規制と使用材料の対応表

○：原料に使用 ×：原料に未使用		指針と基準				E工法主要材料							補助材料			
		厚生労働省	文部科学省	国土交通省	国土交通省	防水材	ウレタン	プライマー	接着剤	トップコート	希釈剤	その他				
		室内濃度指針値	学校環境衛生の基準 室内濃度指針値	品確法 住宅性能表示性能	建築基準法	セピロンコートE	セピロンコートEV	プライマーM4E	プライマーC3	セピロンセメント	セピロントップコートEX	NSソルベント	プライマーM2	プライマーM4	プライマーC2	プライマーM5
物質名称と対応	ホルムアルデヒド	100μg/m ³ (0.08ppm)	100μg/m ³ (0.08ppm)	測 定	使用制限	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	トルエン	260μg/m ³ (0.07ppm)	260μg/m ³ (0.07ppm)	任意測定	—	×	×	×	×	×	×	×	×	○	○	×
	キシレン	870μg/m ³ (0.20ppm)	870μg/m ³ (0.20ppm)	任意測定	—	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○	×
	パラジクロロベンゼン	240μg/m ³ (0.04ppm)	240μg/m ³ (0.04ppm)	—	—	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	エチルベンゼン	3800μg/m ³ (0.88ppm)	3800μg/m ³ (0.88ppm)	任意測定	—	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○	×
	スチレンモノマー	220μg/m ³ (0.05ppm)	220μg/m ³ (0.05ppm)	任意測定	—	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	クロルピリホス	1μg/m ³ (※1) (0.07ppb)	—	—	使用制限	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	フタル酸ジ-n-ブチル	220μg/m ³ (0.02ppm)	—	—	—	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	テトラデカン	330μg/m ³ (0.04ppm)	—	—	—	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	フタル酸ジ-2-エチルヘキシル	120μg/m ³ (7.6ppb)	—	—	—	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	ダイアジノン	0.29μg/m ³ (0.02ppb)	—	—	—	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	アセトアルデヒド	48μg/m ³ (0.03ppm)	—	任意測定	—	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	フェノブカルブ	33μg/m ³ (3.8ppb)	—	—	—	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	ノナナール	41μg/m ³ (7.0ppb)	—	—	—	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×

(※1) 小児の場合：0.1 μg/m³ (0.007 ppb)

建築基準法(飛び火)について

防水層の選定にあたり、下地の構造によっては建築基準法の制約を受ける場合があります。
(市街地における火災を想定した火の粉による建築物の火災の発生を防止するため→所謂「飛び火」)
飛び火に関しては、「防火地域」「準防火地域」「22条地域※」がその制約を受けます。

※特定行政庁が防火地域・準防火地域以外の市街地について指定する区域内にある建築物の屋根

建築基準法では、防火地域、準防火地域内の建築物の屋根において、平成12年建設省告示第1365号(22条地域は第1361号)により、以下の様な構造方法を用いることが定められています。

構 造：	屋根がコンクリート造、ALC、PCaのいずれか、又は耐火構造(国土交通大臣認定含む)
勾 配：	30度以下
断熱材の厚さ：	50mm以下、又はなし
防水材の種類：	アスファルト防水(アスファルトシングル含む)、改質アスファルト防水、塩化ビニル樹脂系シート防水、加硫ゴム系シート防水、塗膜防水のいずれか
※上記のすべてを満たさない場合は、飛び火認定が必要です。	

防火地域

準防火地域

22条(指定)地域

■建築基準法・施行例・告示 抜粋

一建築基準法63条一

防火地域又は準防火地域内の屋根の構造は、市街地における火災を想定した火の粉による建築物の火災の発生を防止するために屋根に必要とされる性能に関して建築物の構造及び用途の区分に応じて政令で定める技術的基準に適合するもので、国土交通大臣が定めた構造方法を用いるもの又は国土交通大臣の認定を受けたものとしなければならない。

[施工令136条]の2の2

法第63条の政令で定める技術的基準は、次の各号(不燃性の物品を保管する倉庫その他これに類するものとして国土交通大臣が定める用途に供する建築物又は建築物の部分で屋根以外の主要構造部が準不燃材料で造られたものの屋根にあつては、第一号)に掲げたものとする。

- 一 屋根が、市街地における通常の火災による火の粉により、防火上有害な発炎をしないものであること。
- 二 屋根が、市街地における通常の火災による火の粉により、屋内に達する防火上有害な溶融、き裂その他の損傷を生じないものであること。

[告示1365号]

第1 建築基準法施工令第136号の2の2各号に掲げる技術的基準に適合する屋根の構造方法は、次に定めるものとする。

- 一 不燃材料で造るか、又はふくこと。
- 二 屋根を準耐火構造(屋外に面する部分を準不燃材料で造ったものに限る。)とすること。

- 三 屋根を耐火構造(屋外に面する部分を準不燃材料で造ったもので、かつ、その勾配が水平面から30度以内のものに限る。)の屋外面に断熱材(ポリエチレンフォーム、ポリスチレンフォーム、硬質ポリウレタンフォームその他これらに類する材料を用いたもので、その厚さの合計が50mm以下のものに限る。)及び防水材(アスファルト防水工法、改質アスファルトシート防水工法、塩化ビニル樹脂系シート防水工法、ゴム系シート防水工法、又は塗膜防水工法を用いたものに限る。)を張ったものとする。

第2 令第136条の2の2第一号に掲げる技術的基準に適合する屋根の構造方法は、第1に定めるもののほか、難燃材料で造るか、又はふくこととする。

一建築基準法22条一

特定行政庁が防火地域又は準防火地域以外の市街地について指定する区域内にある建築物の屋根の構造は、通常の火災を想定した火の粉による建築物の火災の発生を防止するために屋根に必要とされる性能に関して建築物の構造及び用途の区分に応じて政令で定める技術的基準に適合するもので、国土交通大臣が定めた構造方法を用いるもの又は国土交通大臣の認定を受けたものとしなければならない。ただし、茶室、あずまやその他これに類する建築物又は延べ床面積が10m²以内の物置、納屋、その他これらに類する建築物の屋根の延焼の恐れのある部分以外については、この限りでない。

- 2 特定行政庁は、前項の規定による指定をする場合に置いては、あらかじめ、都市計画区域内にある区域については都道府県都市計画審議会の意見を聴き、その他の区域については関係市町村の同意を得なければならない。

プライマー類

プライマー-C1

F☆☆☆☆



溶剤1成分型ウレタン系プライマーです。セメントと1:1で混合攪拌して使用します。セメント粒子が下地からのピンホールを防ぐ効果があります。

規格	17kg/缶入
色	褐色透明液体
希釈の可否	キシレン・トルエン30%まで
危険物種別	第4類第二石油類

プライマー-C3

F☆☆☆☆



環境配慮型弱溶剤1成分型ウレタン系プライマーです。セメントと1:1で混合攪拌して使用します。セメント粒子が下地からのピンホールを防ぐ効果があります。主にセピロン工法のコンクリート下地に使用します。

規格	17kg/缶入
色	黄褐色透明液体
希釈の可否	不可
危険物種別	第4類第一石油類

プライマー-M3

F☆☆☆☆



溶剤2成分型クロロブレン系プライマーです。合成ゴムシート下地専用のプライマーです。

※一度開缶したら必ず使い切ってください。(再使用不可)

規格	16kg/セット (主剤 15kg・硬化剤 1kg)
色	主剤：淡黄色粘稠液体 硬化剤：暗褐色透明液体
希釈の可否	不可
危険物種別	主剤：第4類第一石油類 硬化剤：該当なし

プライマー-M4E



水性3成分型エポキシ系プライマーです。モルタル、コンクリート下地用の環境対応型プライマーです。ウレタン系防水材の層間プライマーとしても使用可能です。※仕上塗料の層間プライマーとしては使用できません。

規格	16kg/セット (A液: 4kg・B液: 4kg) (粉体: 8kg)
色	A液：乳白色液体 B液：淡黄色液体 粉体：灰白色粉体
希釈の可否	不可
危険物種別	非危険物

カスタムプライマー-E



水性1成分型ゴムアスファルト系プライマーです。改質アスファルト複合絶縁工法「セピロンM工法」に使用するプライマーです。

規格	16kg/缶入
色	黒色液体
希釈の可否	不可
危険物種別	非危険物

プライマー-C2

F☆☆☆☆



溶剤1成分型ウレタン系プライマーです。浸透型プライマーとして、脆弱なコンクリートや、浸み込みやすい下地の下塗りとして使用します。

規格	16kg/缶入
色	淡黄色透明液体
希釈の可否	不可
危険物種別	第4類第一石油類

プライマー-M2

F☆☆☆☆



溶剤1成分型変性ウレタン系プライマーです。主に金属系の下地や、脱気筒、FRP下地等に塗布して使用します。(下地面のサンディングを推奨します)

規格	0.5、17kg/缶入
色	淡黄色透明液体
希釈の可否	キシレン・トルエン30%まで
危険物種別	第4類第一石油類

プライマー-M4

F☆☆☆☆



溶剤2成分型エポキシウレタン系プライマーです。主に既存下地がウレタン系防水材の場合のプライマーとして使用します。また、各種仕上材の層間プライマーとして使用可能です。可塑剤の移行を防ぐ効果があります。

規格	8kg/セット(主剤4kg・硬化剤4kg)
色	主剤：淡黄色透明液体 硬化剤：無色透明液体
希釈の可否	(防水材層間) 酢酸エチル 30% トルエン 30%まで (トップコート層間：必須) 酢酸エチル 50% トルエン 50%
危険物種別	主剤・硬化剤：第4類第一石油類

プライマー-M5

F☆☆☆☆



弱溶剤2成分型エポキシウレタン系プライマーです。主に既存下地がウレタン系防水材の場合に使用します。また、トップコートの層間プライマーとしても使用可能です。可塑剤の移行を防ぐ効果があります。

規格	8kg/セット(主剤4kg・硬化剤4kg)
色	主剤：淡黄色透明液体 硬化剤：無色透明液体
希釈の可否	(防水材層間) 酢酸エチル 30% トルエン 30%まで (トップコート層間：必須) 酢酸エチル 50% トルエン 50%
危険物種別	主剤・硬化剤：第4類第一石油類

カスタムプライマー



溶剤1成分型ゴムアスファルト系プライマーです。改質アスファルト複合絶縁工法「セピロンM工法」に使用するプライマーで、厳冬期等、水性が使用できない場合に使用します。

規格	16kg/缶入
色	黒色液体
希釈の可否	不可
危険物種別	第4類第二石油類

防水材

セピロンコートQ

JIS A 6021 適合 F☆☆☆☆



環境配慮型の2成分型ウレタン系平場用防水材です。厳冬期でも硬化性に優れ、スピーディな施工が可能です。

規格	18kg/セット (主剤 6kg・硬化剤 12kg)
色	グレー、グリーン(受注生産) (主剤は無色透明液体)
硬化物密度	1.3Mg/m³
希釈の可否	キシレン5%まで*
危険物種別	主剤：第4類第三石油類 硬化剤：可燃性液体類

※トルエン・トップコート用シンナーでも同様に5%まで希釈できます。

セピロンコートE

JIS A 6021 適合 F☆☆☆☆



環境対応型の2成分型ウレタン系平場用防水材です。厳冬期でも硬化性に優れ、スピーディな施工が可能です。

規格	18kg/セット (主剤 6kg・硬化剤 12kg)
色	グレー(主剤は無色透明液体)
硬化物密度	1.3Mg/m³
希釈の可否	NS溶剤5%まで
危険物種別	主剤：第4類第四石油類 硬化剤：可燃性液体類

※各種防水材を小分けして使用する際は、硬化剤の上部を開缶し、攪拌機で均一に攪拌した後に、小分けしてください。(主剤は湿気硬化します)

仕上材

セピロントップコートQ

F☆☆☆☆



溶剤2成分型アクリルウレタン系トップコートです。セピロンコート類の上に塗布し、耐久性・耐候性を向上させ防水層を保護します。※セピロントップコートSiの下塗り材としても使用します。

規格	14kg/セット (主剤 7kg・硬化剤 7kg)
色	グレー、ライトグレー、グリーン
希釈の可否	不可
危険物種別	主剤：第4類第二石油類 硬化剤：第4類第一石油類

グレー

ライトグレー

グリーン

● 艶消し、特注色(受注生産)*

※別途ご相談ください。

セピロンコートQV

JIS A 6021 適合 F☆☆☆☆



環境配慮型の2成分型ウレタン系立面・目止め用防水材です。厳冬期でも硬化性に優れ、スピーディな施工が可能です。※立面用を希釈する場合はだれ止め用を併用してください。

規格	18kg/セット (主剤 6kg・硬化剤 12kg)
色	グレー、グリーン(受注生産) (主剤は無色透明液体)
硬化物密度	1.3Mg/m³
希釈の可否	キシレン5%まで*
危険物種別	主剤：第4類第三石油類 硬化剤：非危険物固体

セピロンコートEV

JIS A 6021 適合 F☆☆☆☆



環境対応型の2成分型ウレタン系立面・目止め用防水材です。厳冬期でも硬化性に優れ、スピーディな施工が可能です。※立面用を希釈する場合はだれ止め用を併用してください。

規格	18kg/セット (主剤 6kg・硬化剤 12kg)
色	グレー(主剤は無色透明液体)
硬化物密度	1.3Mg/m³
希釈の可否	NS溶剤5%まで
危険物種別	主剤：第4類第四石油類 硬化剤：非危険物固体

セピロントップコートEX (HALS含有) F☆☆☆☆



環境対応型2成分型アクリルウレタン系トップコートです。セピロンコート類の上に塗布し、耐久性・耐候性を向上させ防水層を保護します。「HALS」を含有しており、耐候性の良好な塗料です。2回塗りすることにより高耐久仕様となります。

規格	14kg/セット (主剤 7kg・硬化剤 7kg)
色	グレー、ライトグレー
希釈の可否	不可
危険物種別	主剤：第4類第二石油類 硬化剤：第4類第二石油類

グレー

ライトグレー

● 特注色(受注生産)*

セピロントップクール 遮熱

F☆☆☆☆



遮熱性2成分型アクリルウレタン系トップコートです。セピロンコート類の上に塗布し、耐久性・耐候性を向上させ防水層を保護します。太陽光からの赤外線を効率よく反射し、建物への熱の流入を防ぐ塗料です。



規格	14kg/セット (主剤 7kg・硬化剤 7kg)
色	グレー、ホワイト
希釈の可否	不可
危険物種別	主剤：第4類第二石油類 硬化剤：第4類第一石油類

仕上材

セピロントップコートSi 高耐候

F☆☆☆☆



● 特注色 (受注)

環境対応型2成分型アクリルシリコン系トップコートです。セピロンコート類の上に塗布し、耐久性・耐候性を向上させ防水層を保護します。耐久性の高い「シリコン」と「HALS」をバランスよく配合した、高耐久塗料です。

規格	15kg / セット (主剤 6kg・硬化剤 9kg)
色	グレー、ライトグレー、グリーン
希釈の可否	不可
危険物種別	主剤：第4類第二石油類 硬化剤：第4類第二石油類

セピロンシルバー

F☆☆☆☆



溶剤2成分型アクリルウレタン系シルバートップコートです。セピロンコート類の上に塗布し、耐久性・耐候性を向上させ防水層を保護します。

規格	12kg / セット (主剤 6kg・硬化剤 6kg)
色	シルバー
希釈の可否	専用トップコートシンナー 2.4kg / セット※
危険物種別	主剤：第4類第二石油類 硬化剤：第4類第一石油類

※トップコートシンナーを必ず添加してください。

シート・クロス類

セピロンシートA



アクリル／ポリエステル繊維系の絶縁（通気緩衝）シートです。通気効果とクラック防止効果を併せもちます。帯電防止効果に優れ、冬期の静電気の発生を抑制します。パンチ穴により下地になじみやすく、アンカー効果により下地と一体化させる効果があります。

※セピロンシートA施工後は目止めとしてセピロンコートQV又はEVで施工します。

規格	1.2m×50m / 巻
----	--------------

セピロンシートN



ポリエステル繊維系の絶縁（通気緩衝）シートです。通気効果とクラック防止効果を併せもちます。帯電防止効果に優れ、冬期の静電気の発生を抑制します。シート穴が無いため、敷設後は平場用の防水材で施工する事が可能です。

※セピロンシートN施工後はセピロンコートQ又はEで施工します。

規格	1.0m×50m / 巻
----	--------------

クロスK



ポリエステル繊維メッシュのクロスです。主に密着工法や、絶縁工法の立上りに使用します。ウレタン系塗膜防水材の膜厚を確保すると共に、塗膜強度の向上効果があります。

※クロスプライマーで張り付けることは、破断等の原因となるため、使用しないでください。

規格	1.02m×50m / 巻
----	---------------

セピロクロスG



ガラス繊維メッシュのクロスです。主に密着工法や、絶縁工法の立上りに使用します。ウレタン系塗膜防水材の膜厚を確保すると共に、塗膜強度の向上効果があります。

※クロスプライマーで張り付けることは、破断等の原因となるため、使用しないでください。

規格	1.04m×100m / 巻
----	----------------

エムイーシート



改質アスファルト系絶縁シートです。通気効果とクラック防止効果を併せもちます。平場で使用し、ラップジョイント部はMXテープ、端部はテープJを施工した後、セピロンコートQV又はEVで増し塗りします。

規格	1m×15m / 巻
----	------------

接着剤

セピロンセメント

F☆☆☆☆



無溶剤2成分型ウレタン系接着剤です。主にコンクリート・モルタルと絶縁シートを接着させるために使用します。

規格	10kg / セット (主剤 2kg・硬化剤 8kg)
危険物種別	主剤：第4類第四石油類 硬化剤：非危険物固体

セピロンボンド



溶剤1成分型クロロプレン系接着剤です。主にコンクリート・モルタルと絶縁シートを接着させるために使用します。

規格	15kg / 缶
危険物種別	第4類第一石油類

テープ類

セピロンテープ



「セピロンシートA(N)」のジョイント処理用粘着テープです。シート間の通気性を確保し、より通気効果を高めます。

規格	50mm×50m / 巻
----	--------------

MXテープ



「エムイーシート」のジョイント処理用テープです。施工後は、セピロンコートQV(EV)で増し塗りします。

規格	100mm×50m / 巻
----	---------------

テープJ



「エムイーシート」の端末処理用テープです。施工後は、セピロンコートQV(EV)で増し塗りします。

規格	100mm×25m 4巻入 / 箱
----	-------------------

メジテープ



既存保護コンクリートの伸縮目地処理用粘着層付金属テープです。カッターやハサミでカットし、1スパン毎に5mm程度空けて張り付けます。

規格	100mm×16m 厚さ1.0mm
----	-------------------

マルエス水切テープ



パラペットアゴ下用の粘着付水切テープです。アゴ下より5～10mm程度はみ出すように張り付けます。

規格	50mm×50m / 巻
----	--------------

粗面仕上材

ゴム粉



規格	0.45kg / 袋、10kg / 袋
----	---------------------

トップフィラー



規格	0.42kg / 袋
----	------------

シンナー類

トップコートシンナー



規格	14kg / 缶
----	----------

脱気装置

脱気太郎



規格	2個入 / 箱
----	---------

※粗面仕上げはP.17参照

その他の副資材

だれ止め剤



「セピロンコートQ・E」（平場用）に少量添加することにより、緩勾配に使用する事が可能です。

※だれ止め剤は、セピロンコートを1分程度攪拌した後、さらに攪拌してください。

規 格	1kg / 缶
-----	---------

硬化促進剤V



プライマーC1・C2・M2及びセピロンセメントの硬化を促進させます。

※添加量はP.23の「プライマー・接着剤の硬化促進剤について」をご参照ください。

規 格	200g / 缶
-----	----------

硬化促進剤VI



セピロンコート類の硬化を促進させます。

※添加量はP.22の「防水材の可使・硬化時間の目安」をご参照ください。

規 格	1kg / 缶
-----	---------

NSソルベント



低臭・非芳香族系の環境対応型希釈剤です。

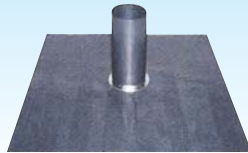
規 格	18L / 缶
-----	---------

改修用ドレン マルエス鉛・銅ドレン

縦 用

※下記以外のサイズについては、弊社担当者までお問い合わせください。

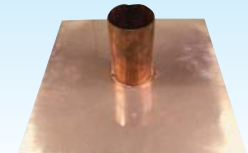
マルエス鉛ドレンM



- 外寸法：330mm×330mm×(H)150mm
- 板 厚：1.5mm

規格	内径	外径
70φ	60mm	63mm
100φ	92mm	95mm

マルエス銅ドレン



- 外寸法：365mm×365mm×(H)150mm
- 板 厚：本体部0.5mm
筒 部0.7mm

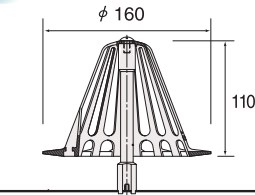
規格	内径	外径
75φ	56.6mm	58mm
100φ	78.1mm	79.5mm

マルエスアルミドレンキャップ

■縦・大



適用径 50～100φ

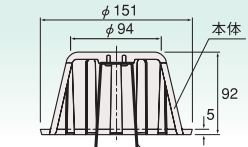


■縦・小



適用径 30～75φ

マルエスドレンキャップ(鉄鋳物)

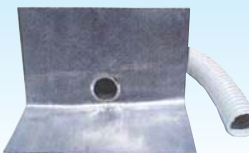


適用径 50～100φ

横 用

※ジャバラは、同梱されている説明書に従い、施工時に取り付けてください。

マルエス鉛ドレンM



- 外寸法：330mm×330mm
- ホース長：500mm
- 板 厚：1.5mm

規格	内径	外径
75φ	63.5mm	71.2mm
100φ	88.9mm	97.7mm

マルエス銅ドレン



- 外寸法：365mm×365mm
- ホース長：600mm
- 板 厚：本体部0.5mm
筒 部0.7mm

規格	内径	外径
75φ	63.5mm	72.6mm
100φ	76.2mm	85.8mm

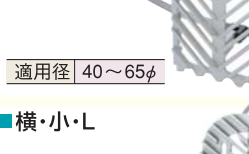
マルエスアルミドレンキャップ

■横自在



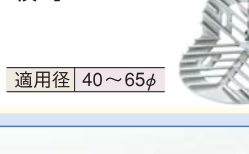
適用径 50～100φ

■横・小・平

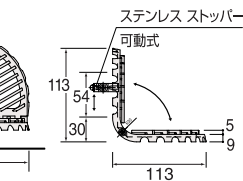


適用径 40～65φ

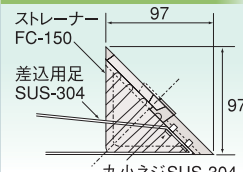
■横・小・L



適用径 40～65φ



マルエスドレンキャップ(鉄鋳物)



適用径 50～100φ

セピロン材料一覧表

種類	品 名	内 容	荷 姿	備 考
防水材	セピロンコートQ	環境配慮型ウレタン塗膜防水材 平場用 グレー、グリーン(受注) JIS A 6021 ウレタンゴム系高伸長形 (旧1類) 適合品	主 剤 6kg 硬化剤 12kg	F☆☆☆☆
	セピロンコートQV	環境配慮型ウレタン塗膜防水材 立面用 グレー、グリーン(受注) JIS A 6021 ウレタンゴム系高伸長形 (旧1類) 適合品	主 剤 6kg 硬化剤 12kg	F☆☆☆☆
	セピロンコートE	環境対応型ウレタン塗膜防水材 平場用 グレー JIS A 6021 ウレタンゴム系高伸長形 (旧1類) 適合品	主 剤 6kg 硬化剤 12kg	F☆☆☆☆
	セピロンコートEV	環境対応型ウレタン塗膜防水材 立面用 グレー JIS A 6021 ウレタンゴム系高伸長形 (旧1類) 適合品	主 剤 6kg 硬化剤 12kg	F☆☆☆☆
仕上材	セピロントップコートQ	アクリルウレタン系トップコート グレー、ライトグレー、グリーン	主 剤 7kg 硬化剤 7kg	F☆☆☆☆
	セピロンシルバー	アクリルウレタン系シルバートップコート	主剤 6kg 硬化剤 6kg	F☆☆☆☆
	セピロントップコートEX	アクリルウレタン系トップコート グレー、ライトグレー、グリーン(特注品)	主 剤 7kg 硬化剤 7kg	F☆☆☆☆
	セピロントップコートSi	アクリルシリコン系高耐久トップコート グレー、ライトグレー、グリーン	主 剤 6kg 硬化剤 9kg	F☆☆☆☆
プライマー	セピロントップクール	アクリルウレタン系遮熱性トップコート グレー、ホワイト	主 剤 7kg 硬化剤 7kg	F☆☆☆☆
	プライマー-C1 ※1	コンクリート・モルタル用 (一般用)	17kg	F☆☆☆☆
	プライマー-C2	コンクリート・モルタル用 (脆弱部用)	16kg	F☆☆☆☆
	プライマー-C3 ※1	コンクリート・モルタル用 (セピロンE工法等・一般用)	17kg	F☆☆☆☆
	プライマー-M2	金属、その他多目的用	0.5kg、17kg	F☆☆☆☆
	プライマー-M3	ゴムシート用	主剤 15kg 硬化剤 1kg	F☆☆☆☆
	プライマー-M4	ウレタン・トップコート塗継用 (セピロンQ工法用)	主剤 4kg 硬化剤 4kg	F☆☆☆☆
	プライマー-M4E	コンクリート・モルタル用水系プライマー	混和液(A液4kg・B液4kg) 粉体8kg	—
	プライマー-M5	ウレタン・トップコート塗継用 (セピロンE工法用)	主剤 4kg 硬化剤 4kg	F☆☆☆☆
	カスタムプライマー-E	アスファルト系水性プライマー	16kg	エムイーシート施工用
シート	カスタムプライマー	アスファルト系プライマー	16kg	エムイーシート施工用
	セピロンシートA	絶縁工法用シート (穴ありタイプ)	1.2m×50m	アクリル/ポリエステル繊維不織布
	セピロンシートN	絶縁工法用シート (穴なしタイプ)	1m×50m	ポリエステル繊維不織布
	クロスK	補強布 (合成繊維)	1.02m×50m	—
	セピロンクロスG	補強布 (ガラスクロス)	1.04m×100m	—
	セピロンクロスKN	粘着層付補強布 (合成繊維)	100mm、200mm×50m	—
	エムイーシート	複合絶縁工法用改質アスファルトシート	1m×15m、t=1.0mm	—
副資材	セピロンセメント	2成分無溶剤型ウレタン系接着剤	主剤 2kg 硬化剤 8kg	F☆☆☆☆
	セピロンボンド	1成分クロロプレンゴム系接着剤	15kg	—
	ゴム粉	粗面仕上材用	0.45kg、10kg	—
	トップフィラー	粗面仕上材用無機質系フィラー	0.42kg	—
	セピロンテープ	セピロンシート用ジョイントテープ	50mm×50m	—
	MXテープ	エムイーシート用ジョイントテープ	100mm×50m	—
	テープJ	エムイーシート用端末テープ	100mm×25m、4巻入/箱	—
	マルエス水切テープ	バラペットアゴ下専用水切テープ	50mm×50m	—
	メジテープ	目地処理用粘着層付金属テープ	100mm×16m、t=1.0mm	—
	トップコードダンナー	専用希釈剤	14kg	—
	セピロンラテックス	下地調整用SBR系ラテックス	17kg	セピロンモルタル(現場調査)用
	だれ止め剤 ※3	セピロンコート類用だれ止め剤	1kg	—
	硬化促進剤V	プライマー、接着剤用硬化促進剤	200g	—
	硬化促進剤VI	セピロンコート類用硬化促進剤	1kg	—
	脱気太郎	ステンレス製脱気装置	2個/箱	—
	NSソルベント	環境対応型希釈剤	18L	—

※1. プライマーC10・C30は、プライマーC1とポルトランドセメントを1:1の割合で混合したものです。

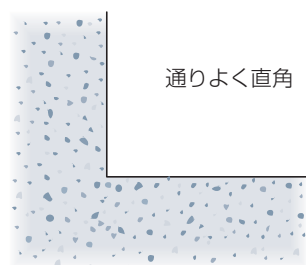
※2. だれ止め剤は勾配がある場合等に使用します。使用量はセピロンコートQ(E)1セット当たり120g以下とします。

また、セピロンコートQ(E)にだれ止め剤を入れたものを立面に使用しないでください。

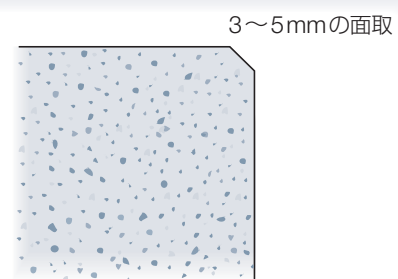
※3. 硬化促進剤の添加量、使用方法はP.22、23をご参照ください。

下地の処理

●出隅



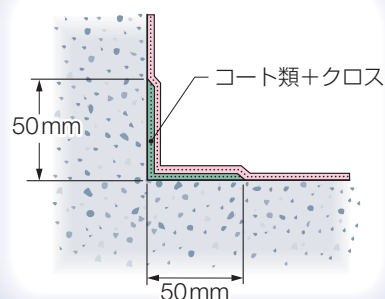
●入隅



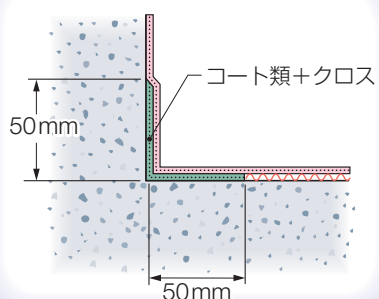
既存スラブが丸面取の場合は、そのまま加工可能です。

補強塗りの処理

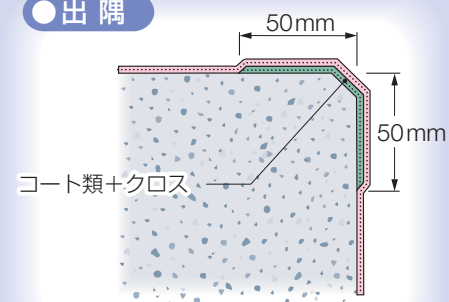
●入隅(密着工法)



●入隅(絶縁工法)

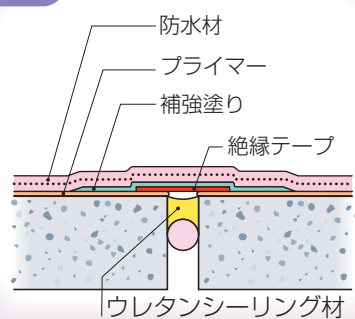


●出隅

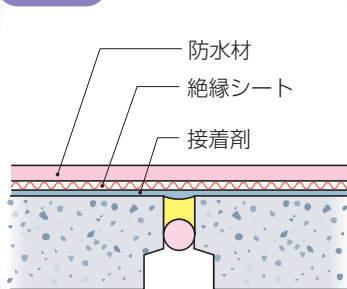


PC板

●例1

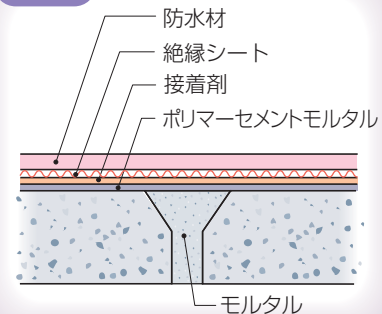


●例2



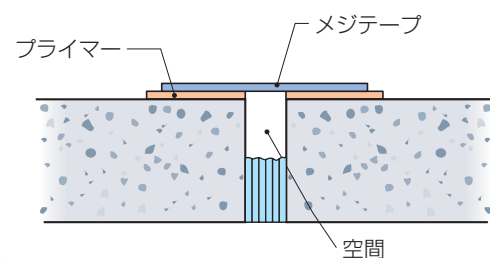
ALC板

●例1

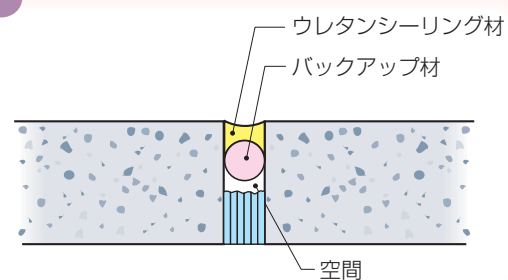


伸縮目地の処理

●例1

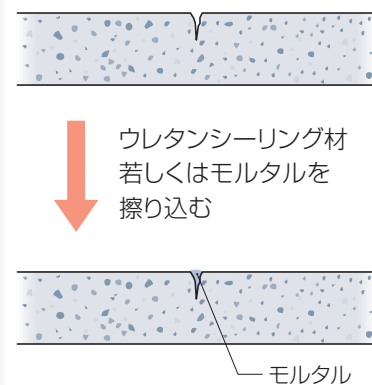


●例2

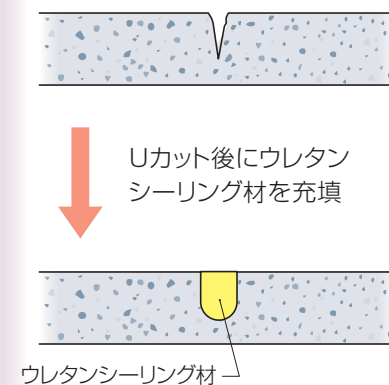


下地ひび割れ

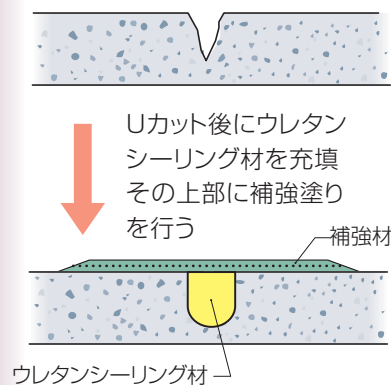
●1mm未満のひび割れ



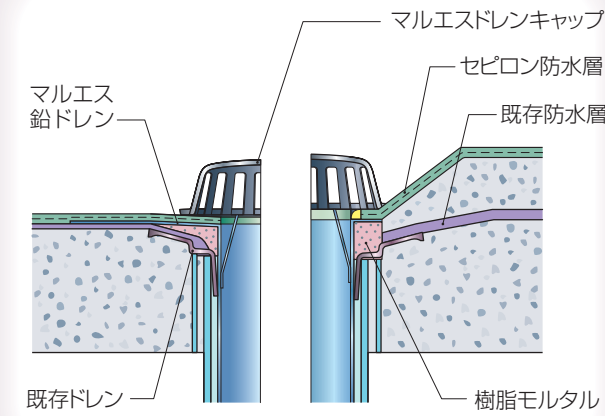
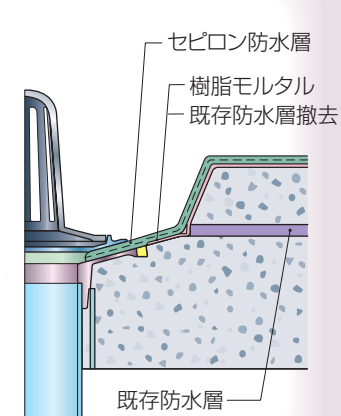
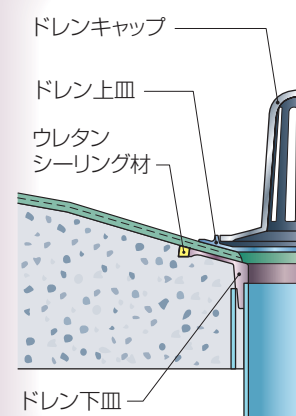
●1mm以上のひび割れ



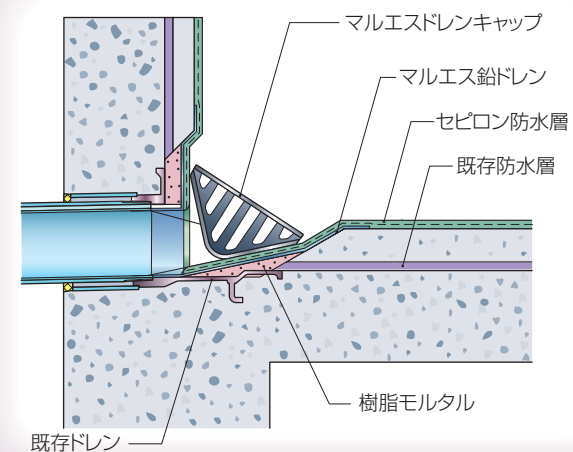
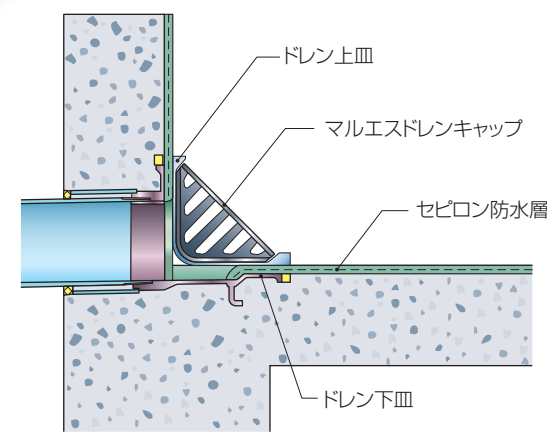
●2mm以上のひび割れ



縦引ドレン

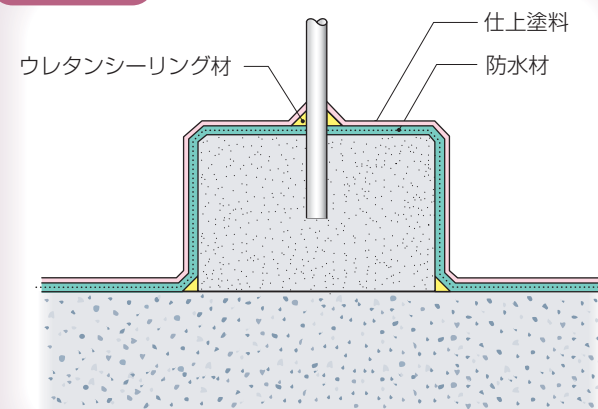


横引ドレン

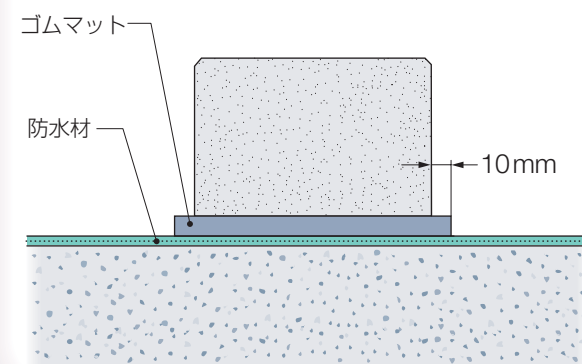


基礎・パラペット・パイプ・脱気筒廻り

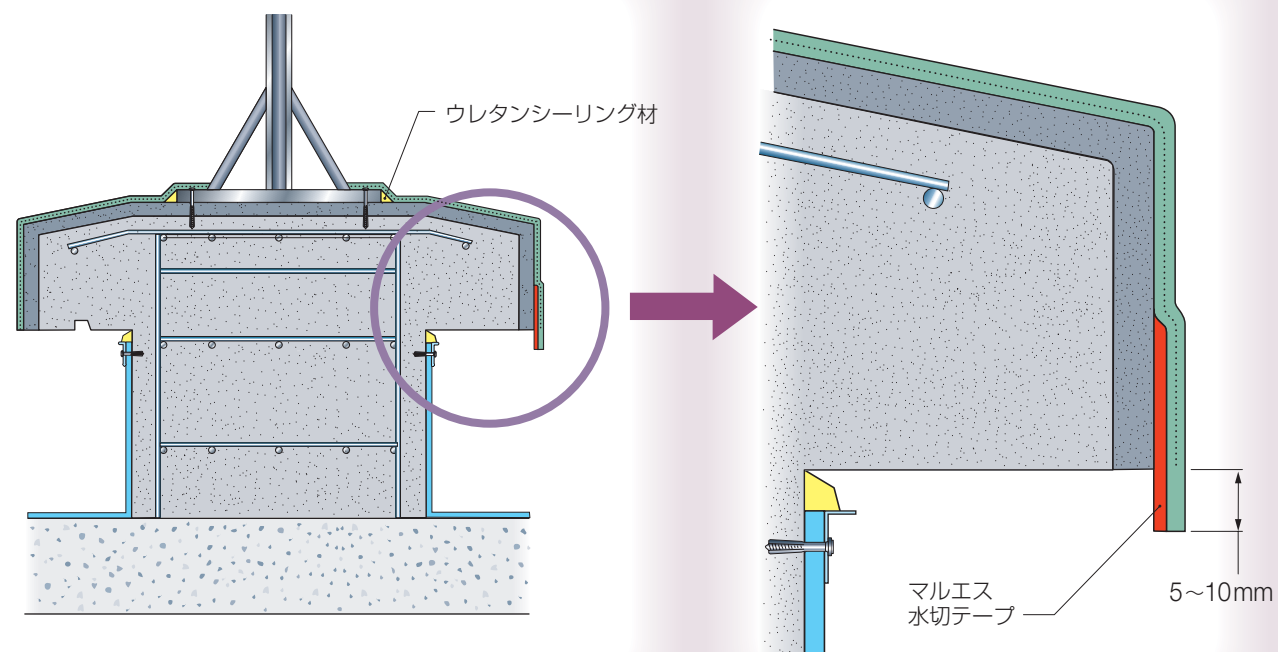
●固定基礎



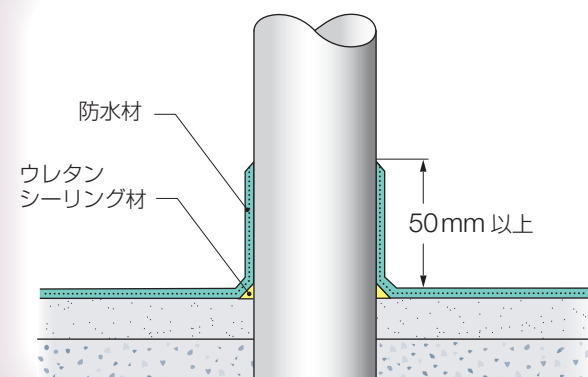
●置き基礎



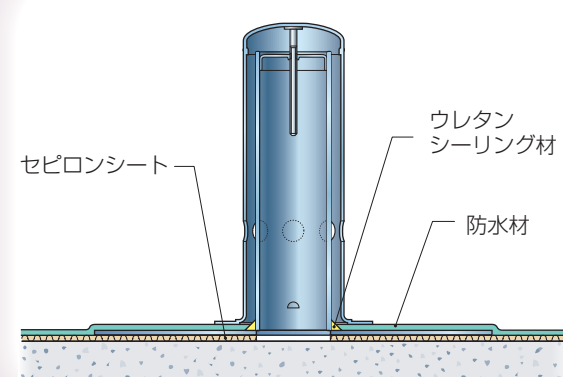
●パラペット廻り



●パイプ廻り

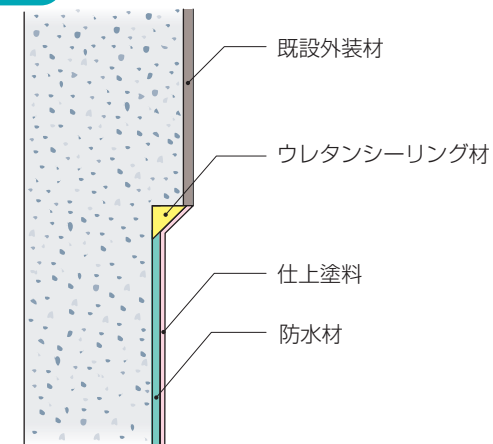


●脱気筒廻り

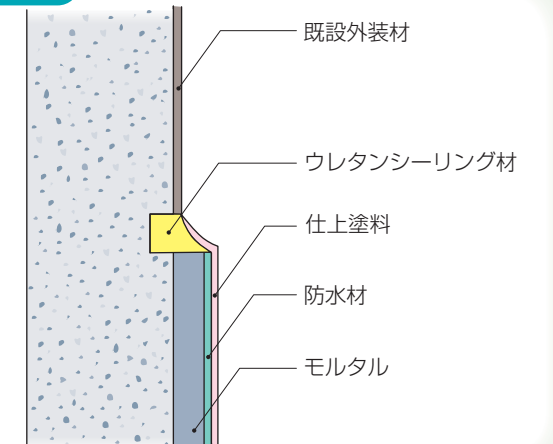


壁面取合

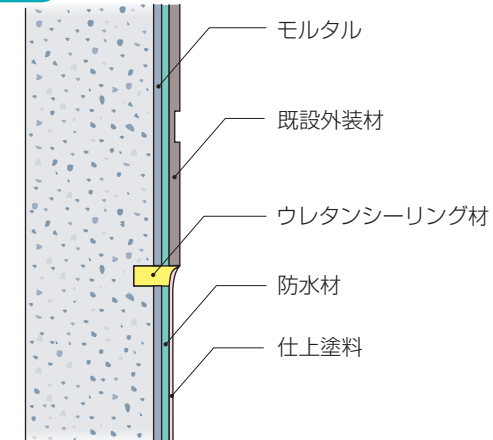
●入り巾木



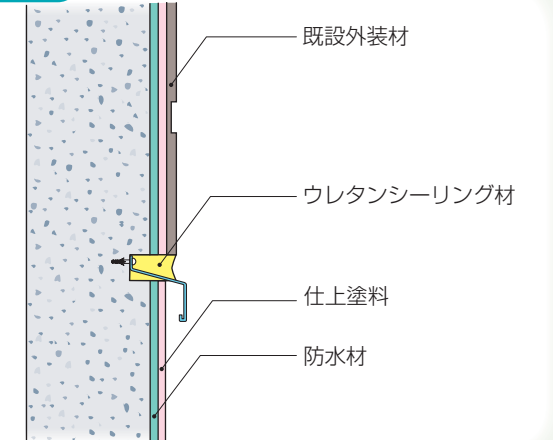
●出巾木

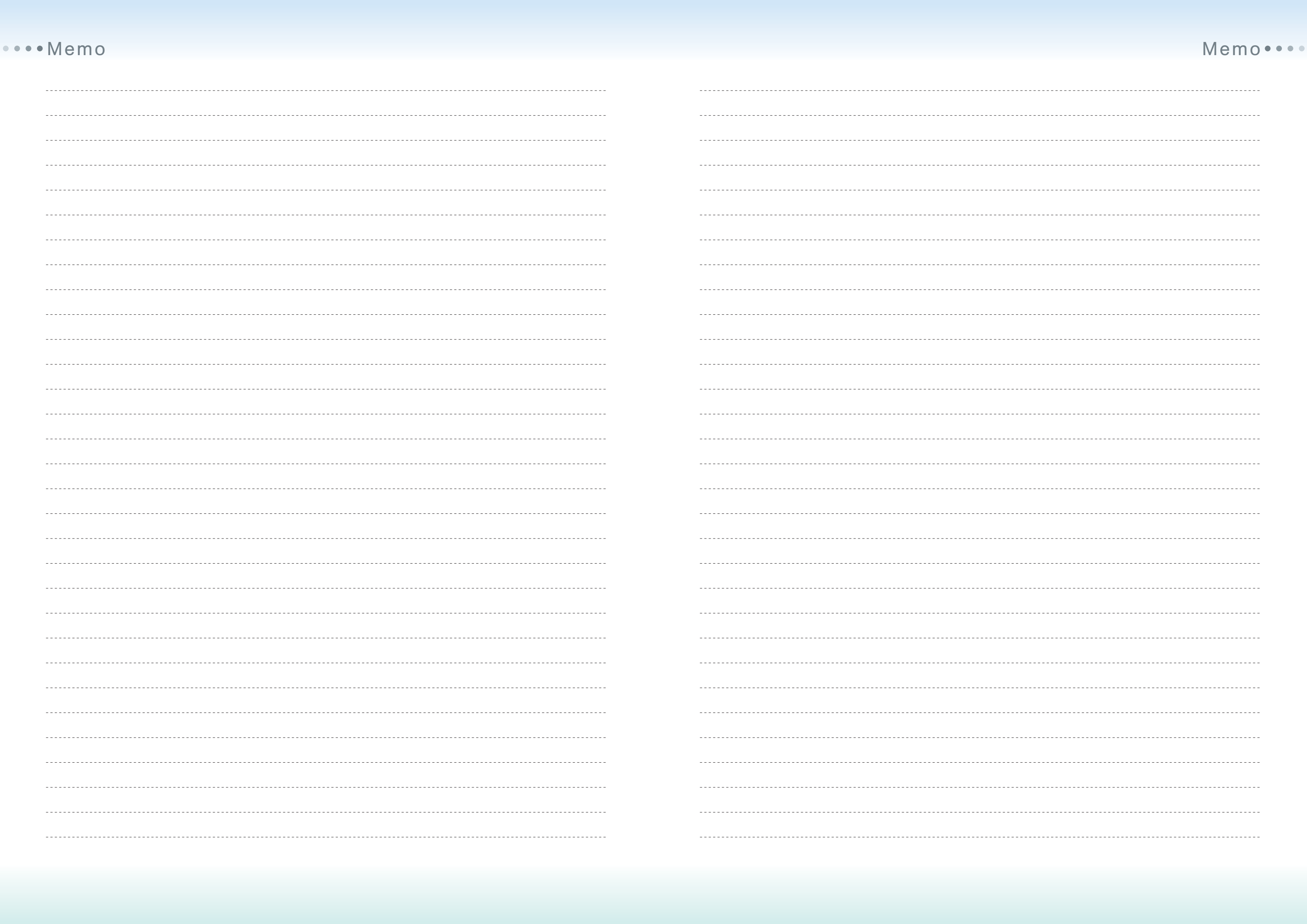


●入り巾木



●出巾木





Handwriting practice area on the left page, consisting of 25 horizontal dashed lines.

Handwriting practice area on the right page, consisting of 25 horizontal dashed lines.